

Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0

プロフィール管理機能 プロフィール設定項目集

CA92344-5719-02

2024年11月

まえがき

本書の目的

本書では、サーバー、ストレージ、スイッチなどのICT機器やファシリティ機器(PDUなど)を統合的に管理、運用する運用管理ソフトウェアであるInfrastructure Manager で、管理対象機器のプロファイル作成の設定を行う際に選択する項目の詳細情報について説明します。

- Infrastructure Manager (以降、「ISM」と表記)
- Infrastructure Manager for PRIMEFLEX (以降、「ISM for PRIMEFLEX」と表記)

ISMマニュアル

マニュアル名称	説明
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 入門書	本製品を初めて使用する利用者向けのマニュアルです。 本製品の製品体系／ライセンス、利用手順の概要について説明しています。 マニュアル内では、『入門書』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 解説書	本製品の機能、導入手順、操作方法を説明したマニュアルです。本製品の 全機能、全操作を把握できます。 マニュアル内では、『解説書』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 操作手順書	本製品の導入手順、利用シーンに応じた操作手順を説明したマニュアル です。 マニュアル内では、『操作手順書』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 REST API リファレンスマニュアル	お客様が作成したアプリケーションと本製品を連携する際に必要なAPIの 使用方法、サンプル、パラメーター情報などを説明したマニュアルです。 マニュアル内では、『REST API リファレンスマニュアル』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 メッセージ集	ISM使用時に出力される各種メッセージの説明と、そのメッセージに対し ての対処方法について説明しています。 マニュアル内では、『ISM メッセージ集』と表記します。
Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 メッセージ集	ISM for PRIMEFLEX使用時に出力される各種メッセージの説明と、その メッセージに対しての対処方法について説明しています。 マニュアル内では、『ISM for PRIMEFLEX メッセージ集』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 プロファイル管理機能 プロファイル設定項目集	管理対象機器のプロファイル作成の設定を行う際に選択する項目の詳細 情報について説明しています。 マニュアル内では、『プロファイル管理機能プロファイル設定項目集』と表記 します。
Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 クラスタ作成／拡張機能 設定値一覧	ISM for PRIMEFLEXにおいてクラスタ作成機能、クラスタ拡張機能の自 動設定内容や各機能で使用するクラスタ定義パラメーターについて説明 しています。 マニュアル内では、『ISM for PRIMEFLEX 設定値一覧』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 用語集	本製品を使用するうえで理解が必要な用語の定義を説明した用語集です。 マニュアル内では、『用語集』と表記します。
Infrastructure Manager / Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V3.0.0 Plug-in and Management Pack セットアップガイド	Infrastructure Manager Plug-inの以下の機能について、インストールから 利用方法までと注意事項や参考情報を説明します。 • Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Operations Manager • Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Virtual Machine Manager

マニュアル名称	説明
	- Infrastructure Manager Plug-in for VMware vCenter Server Appliance - Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft Windows Admin Center マニュアル内では、『ISM Plug-in/MP セットアップガイド』と表記します。

上記マニュアルと併せて、ISMに関する最新情報については、当社の本製品Webサイトを参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/>

管理対象の各ハードウェアについては、各ハードウェアのマニュアルを参照してください。

PRIMERGYの場合は、「ServerView Suite ServerBooks」、またはPRIMERGYマニュアルページを参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

本書の読者

このマニュアルは、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステム管理者、ネットワーク管理者、ファシリティー管理者およびサービス専門家を対象とします。

本書の表記について

表記

キーボード

印字されない文字のキーストロークは、[Enter]や[F1]などのキーアイコンで表示されます。例えば、[Enter]はEnterというラベルの付いたキーを押すことを意味し、[Ctrl]+[B]は、CtrlまたはControlというラベルの付いたキーを押しながら[B]キーを押すことを意味します。

記号

特に注意すべき事項の前には、以下の記号が付いています。



ポイント

ポイントとなる内容について説明します。



注意

注意する項目について説明します。

変数: <xxx>

お使いの環境に応じた数値/文字列に置き換える必要のある変数を表します。

例: <IPアドレス>

略称

本書では、以下の例のとおりOSを略称で記載することがあります。

正式名称	略称	
Microsoft® Windows Server® 2022 Datacenter	Windows Server 2022 Datacenter	Windows Server 2022 またはWindows
Microsoft® Windows Server® 2022 Standard	Windows Server 2022 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2022 Essentials	Windows Server 2022 Essentials	

正式名称	略称	
Red Hat Enterprise Linux 9.3 (for Intel64)	RHEL 9.3	Red Hat Enterprise Linux またはLinux
SUSE Linux Enterprise Server 15 SP5 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 15 SP5(AMD64) SUSE 15 SP5(Intel64) または SLES 15 SP5(AMD64) SLES 15 SP5(Intel64)	SUSE Linux Enterprise Server またはLinux
SUSE Linux Enterprise Server 15 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 15(AMD64) SUSE 15(Intel64) または SLES 15(AMD64) SLES 15(Intel64)	
VMware ESXi™ 8.0	VMware ESXi 8.0	VMware ESXi
VMware Virtual SAN	vSAN	
Microsoft Storage Spaces Direct	S2D	

本書では、VMware by Broadcom社をVMwareと表記します。

用語

本書で使用している主な略語および用語については、『用語集』を参照してください。

PDF表示アプリケーション(Adobe Readerなど)での操作について

PDF表示アプリケーションで以下の操作を行った場合、表示アプリケーションの仕様により、不具合(余分な半角空白や改行の追加、半角空白や行末のハイフンの欠落、改行だけの行の欠落など)が発生することがあります。

- テキストファイルへの保存
- テキストのコピー&ペースト

高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対してもエフサステクノロジーズ株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本製品を安全にお使いいただくためには、本製品のご使用にあたり各製品(ハードウェア、ソフトウェア)をご理解いただく必要があります。必ず各製品の注意事項に従ったうえで本製品をご使用ください。本書は本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともしうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

免責事項

本製品の運用を理由とする損失、免失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねます。本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

登録商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Hyper-V、Active Directory、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat およびRed Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

SUSEおよびSUSEロゴは、米国およびその他の国におけるSUSE LLCの商標または登録商標です。

VMwareおよびVMwareの製品名は、Broadcom Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。

Intel、インテル、Xeonは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Zabbixはラトビア共和国にあるZabbix LLCの商標です。

PostgreSQLはPostgreSQLの米国およびその他の国における商標です。

Apacheは、Apache Software Foundationの商標または登録商標です。

Ciscoは、米国およびその他の国における Cisco Systems, Inc. およびその関連会社の商標です。

Elasticsearchは、Elasticsearch BVの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

著作権表示

Copyright 2017-2024 Fsas Technologies Inc.

本書を無断で複製・転載することを禁止します。

改版履歴

版数	作成年月	変更内容	章・節・項	変更箇所
01	2024年9月	新規作成	—	—
02	2024年11月 主な構成変更や 記事改善	VMwareの商標変更に伴い記述 を変更	まえがき	登録商標について

目 次

第1章 PRIMERGY・PRIMEQUEST 3000B / 4000Eサーバー用プロファイルの BIOS/iRMC 設定項目	1
第2章 PRIMEQUEST 2000(パーティション)・PRIMEQUEST 2000B・PRIMEQUEST 3000Eシリーズ パーティション用プロファイルの MMB 設定項目	22
第3章 サーバー用プロファイルのOS設定項目	24
3.1 Windows Server用プロファイル	24
3.2 VMware ESXi用プロファイル	29
3.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル	32
3.4 SUSE Linux Enterprise Server用プロファイル	37
第4章 PRIMERGYサーバー / PRIMEQUEST 3000E / 4000E パーティション用プロファイルの仮想IO設定項目	43
4.1 カード設定	43
4.2 ポート設定	43
4.3 ブート設定	45
4.4 CNA設定	46
4.5 仮想アドレス設定	47
第5章 PRIMERGYサーバー用プロファイルの RAID設定項目	49
第6章 ストレージ用プロファイルの設定項目	50
6.1 ETERNUS DX用プロファイル	50
6.2 ETERNUS NR・ETERNUS AX・ETERNUS HX・ETERNUS AC用プロファイル	53
第7章 スイッチ用プロファイルの設定項目	55
7.1 SR-X用プロファイル	55
7.2 VDX用プロファイル	57
7.3 イーサネットスイッチ (10GBASE-T 48+6 / 10GBASE 48+6) 用プロファイル	60
7.4 CFX用プロファイル	62
第8章 共通ポリシーの設定項目	67
8.1 監視ポリシー	67

第1章 PRIMERGY・PRIMEQUEST 3000B / 4000Eサーバー用プロファイルの BIOS/iRMC 設定項目

プロファイル中のBIOS/iRMCタブで設定可能な項目を記載します。

注意

- ・サーバーのモデルによって、一部設定できない項目や設定内容が異なる項目があります。対象サーバーがサポートしている範囲で設定してください。
- ・プロファイル内の設定項目は、個別に有効／無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に設定した項目は変更されません。
- ・プロファイルと実際の機種の設定項目が異なる場合があります。各項目の詳細は、対象サーバーのマニュアルを参照し、プロファイルの該当する設定項目に対して設定してください。

BIOSタブ

項目名	説明	設定値
PCI Subsystem Settings		
ASPM Support (PCI-E ASPM Support (Global)) (Disabled / L1 only / Auto / Force L0s)	PCI Expressリンクの電源管理に Active State Power Management (ASPM) を使用するかどうかを指定します。ASPMはこの設定によって全般的に有効になっていますが、該当するPCI Express拡張カードまたはオンボードコントローラーもASPMをサポートしている場合にのみ特定のリンクに対して有効になります。	Disabled＝ASPMを無効にする L1 only＝PCI Expressリンクの低電力モードはL1(単方向)に設定する Auto＝省電力を最大化されるように設定する Force L0s / Limit to L0s＝PCI Express リンクの低電力モードをL0s(単方向)に設定する
DMI Control (GEN 1 / GEN 2)	CPUとチップセット間のバス接続速度を選択します。速度が遅いほど消費電力が少なくなりますが、システムパフォーマンスも低下します。	GEN 1＝CPUとチップセット間のバス接続を設定して2.5 GT/sで実行する GEN 2＝CPUとチップセット間のバス接続を設定して5.0 GT/sで実行する
Above 4G Decoding (Enabled / Disabled)	4 GBのアドレス境界を超えるメモリリソースをPCIデバイスに割り当てることができるかどうかを指定します。 選択肢は、オペレーティングシステムと取り付けられているアダプタカードによって決まります。	Enabled＝4 GBのアドレス境界を超えるメモリリソースをPCIデバイスに割り当てる Disabled＝4 GBのアドレス境界未満のメモリリソースのみ、PCIデバイスに割り当てる
SR-IOV Support (Enabled / Disabled)	システムにSR-IOV対応のPCIeデバイスが搭載されている場合、Single Root IO Virtualizationを有効にするかを指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
CPU Configuration		
Execute Disable Bit (Enabled / Disabled)	CPUのExecute Disable Bit動作を指定します。本機能は、マニュアルによって、「XD (eXecute Disable) ビット」、または「NX (No eXecute) ビット」として説明されている場合があります。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする

項目名	説明	設定値
Hyper-Threading (Enabled / Disabled)	CPUのHyper Threading Technology動作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定は無視されます。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする
Active Processor Cores (All / 1-64) (注:PRIMERGY M7シリーズ以降は未サポート。モデル毎プロファイルで設定可能)	複数のプロセッサコアが含まれているプロセッサに対して、有効なプロセッサコア数を指定します。有効でないプロセッサコアは使用されず、OSから隠蔽されます。	All＝使用可能なすべてのプロセッサコアを有効にする 1-64＝選択した数のプロセッサコアのみを有効にし、残りのプロセッサコアは無効にする
Hardware Prefetcher (Enabled / Disabled)	メモリーバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるメモリー内容が自動的にキャッシュにプリロードするか指定します。 メモリーではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする
Adjacent Cache Line Prefetch (Enabled / Disabled)	プロセッサのキャッシュ要求時に追加の隣接する64バイトキャッシュラインをロードするか指定します。 プロセッサのキャッシュ要求時に追加の隣接する64バイトキャッシュラインをロードするためのメカニズムがプロセッサに備わっている場合に、このパラメーターを使用できます。これによって、空間局所性の高いアプリケーションのキャッシュヒット率が高まります。	Enabled＝要求されたキャッシュラインと隣接キャッシュラインをロードする Disabled＝要求されたキャッシュラインをロードする
DCU Streamer Prefetcher (Enabled / Disabled)	メモリーバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるデータ内容が自動的にL1データキャッシュにプリロードするか指定します。 メモリーではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
DCU IP Prefetcher (Enabled / Disabled)	CPUのDCU IP Prefetch動作を指定します。	Enabled＝CPUのDCU IP Prefetchを有効にする Disabled＝CPUのDCU IP Prefetchを無効にする
Intel Virtualization Technology (Enabled / Disabled)	CPUの仮想化支援機能の動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
Intel (R) VT-d (Enabled / Disabled)	CPUのVirtualization Technology for Directed I/O機能動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
Power Technology (Energy Efficient / Custom/ Disabled)	CPUの電源管理動作を設定します。	Energy Efficient＝省電力に最適化された動作をする Custom＝追加設定項目により詳細動作を設定する

項目名		説明	設定値
			Disabled＝電源管理機能を無効にする
	HWPM Support (Disabled / Native Mode / OOB Mode)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 パフォーマンスおよび省電力を管理するHWPM (Hardware Power Management) の設定を指定します。	Disabled＝HWPM機能を使用しない Native Mode＝HWPMは、ソフトウェアインターフェイス経由でオペレーティングシステムと協調動作する。 OOB Mode＝CPUは、オペレーティングシステムのエネルギー効率ポリシーの設定に基づいて周波数を自動的に制御する
	Enhanced Speed Step (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 CPUのEIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology) 動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	Turbo Mode (Enabled / Disabled)	Enhanced Speed StepがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 CPUのTurbo Boost Technology動作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定に関わらず無効(Disabled)と設定されます。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	Override OS Energy Performance (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 OSがセットアップのエネルギー効率ポリシーの設定を上書きしないように防止するか指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	Energy Performance (Performance / Balanced Performance / Balanced Energy / Energy Efficient)	Power TechnologyがCustomの場合かつ、Override OS Energy PerformanceがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 非レガシーオペレーティングシステムでのプロセッサのエネルギー効率ポリシーを指定します。 動作によってこのモードを使用しないように決定されることがあります。	Performance＝エネルギー効率を犠牲にしても、パフォーマンスを得る方向に強く最適化する Balanced Performance＝エネルギーを節約しながら、パフォーマンスを得る方向に設定する Balanced Energy＝良好なパフォーマンスを得ながら、エネルギーを節約する方向に設定する Energy Efficient＝パフォーマンスを犠牲にしても、エネルギー効率を得る方向に強く最適化する
	Utilization Profile (Even / Unbalanced)	Power TechnologyがCustomの場合かつ、Override OS Energy PerformanceがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 異なるシステム利用に最適化されるエネルギーパフォーマンスの割合を指定します。	Even＝エネルギーパフォーマンスがバランスの取れたシステム利用のため最適化する Unbalanced＝パフォーマンスを優先したアンバランスのシステム利用に最適化する
	CPU C1E Support	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。	Enabled＝機能を有効にする

項目名		説明	設定値
	(Enabled / Disabled)	電力の節約が可能ときにプロセッサを停止するか指定します。	Disabled＝機能を無効にする
	Autonomous C-state Support (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサのAutonomous Cステートクロック制御を有効にするか指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
	CPU C3 Report (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサのC3状態をACPI C-2状態としてOSPM (OS Power Management) に渡すか指定します。	Enabled＝CPU C3はACPI C-2状態としてOSPMに渡す Disabled＝CPU C3はACPI C-2状態としてOSPMに渡さない
	CPU C6 Report (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサのC6状態をACPI C-3状態としてOSPMに渡して、プロセッサのDeep Power Down Technologyを有効にするか指定します。	Enabled＝CPU C6はACPI C-3状態としてOSPMに渡す Disabled＝CPU C6はACPI C-3状態としてOSPMに渡さない
	Package C State Limit (C0 / C2 / C6 / C6(Retention) / C7 / C7s / No Limit / Auto)	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサのC Stateの上限を指定します。	C0＝C Stateの上限をC0に設定する C2＝C Stateの上限をC2に設定する C6＝C Stateの上限をC6に設定する C6(Retention)＝C6 RetentionをC状態限度に設定する C7＝C Stateの上限をC7に設定する C7s＝C State の上限をC7sに設定する No Limit＝C Stateの上限を制限しない Auto＝システムで自動に決定する
	QPI Link Frequency Select (Auto、6.4 GT/s、7.2 GT/s、8.0 GT/s、9.6 GT/S、10.4 GT/s)	リンク周波数を、CPUで共通してサポートされる周波数に指定します。	Auto＝BIOSから、システムに存在するCPUとチップセットに基づいて最大速度を設定する 使用可能な速度設定はCPUに依存する。以下を選択する。 6.4 GT/s、7.2 GT/s、8.0 GT/s、9.6 GT/s、10.4 GT/s
	Uncore Frequency Override (Maximum / Nominal / Disabled / Power balanced)	プロセッサのアンコア周波数を指定します。これによりI/Oパフォーマンスを向上させます。	Maximum＝周波数は常に事前に定義された最大値を設定する Nominal＝電力を節約するために、事前に定義された範囲でプロセッサが自動的に周波数を制御する。定格周波数を上回ることはない

項目名		説明	設定値
			Disabled＝電力を節約するために、事前に定義された範囲でプロセッサが自動的に周波数を制御する Power balanced＝電力とパフォーマンスのバランスを最適化するために、事前に定義された範囲でプロセッサが自動的に周波数を制御する
LLC Dead Line Alloc (Enabled / Disabled)		LLC (Last Level Cache) のデッドラインの処理を指定します。 これによりシステムパフォーマンスは影響を受けます。	Enabled＝便宜的にLLCのデッドラインを満たす Disabled＝LLCのデッドラインを満たさない
Stale AtoS (Enabled / Disabled)		Caching Agentで陳腐化したデータのディレクトリー最適化を指定します。 これによりシステムパフォーマンスは影響を受けます。	Enabled＝最適化を有効にする Disabled＝最適化を無効にする
COD Enable (Enabled / Auto / Disabled)		BIOSが追加のNUMAノードをソケットごとに構成し、NUMA指向性の高い作業負荷のパフォーマンスを最適化するか指定します。 この項目は、2つのホームエージェントを持つCPUが必要です。COD (Cluster-on-Die) が有効なシステムの場合、等時性アプリケーションを無効にする必要があり、早期スヌーピングはサポートされません。	Enabled＝機能を有効にする Auto＝システム構成でこれを許可する場合にCODを有効にする Disabled＝機能を無効にする
Early Snoop (Enabled / Auto / Disabled)		早期スヌーピングを有効にするか指定します。CODが有効な場合はサポートされません。	Enabled＝機能を有効にする Auto＝システム構成でこれが許可されずCODが無効な場合に、早期スヌープモードが有効になる Disabled＝機能を無効にする
Home Snoop Dir OSB (Enabled / Auto / Disabled)		Home Snoop Directory with plain OSB (Opportunistic Snoop Broadcast) キャッシングを使用してスヌープ処理を最適化するか指定します。	Enabled＝機能を有効にする Auto＝CPU構成に基づいて自動的に選択される Disabled＝機能を無効にする
Memory Configuration			
NUMA (Enabled / Disabled)		NUMA (Non-Uniform Memory Access) 機能の利用有無を指定します。 マルチプロセッサ構成ではない場合は意味を持ちません。 BX920、BX924、RX200、RX300、RX2520の場合、本設定は、BX920 S4、BX924 S4、RX200 S8、RX300 S8、RX2520 M1のBIOS 1.3.0、iRMCファーム7.19F以降が適用された装置でのみサポートされます。それ以外の装置では、本設定自体を無効化しておく必要があります。	Enabled＝NUMA機能を有効にする Disabled＝NUMA機能を無効にする

項目名		説明	設定値
DDR Performance (Low-Voltage optimized / Energy optimized / Performance optimize / Power balanced)		メモリーモジュールは異なる速度(周波数)で動作します。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になります。使用可能なメモリー速度は、取り付けられているメモリーモジュールの構成に応じて異なります。	Low-Voltage optimized＝低電圧で可能な最も高速な設定 Energy optimized＝省電力で可能な最も低速な設定 Performance optimized＝最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定 Power balanced＝電力とパフォーマンスのバランスをとるために速度を低減した設定
Patrol Scrub (Enabled / Disabled)		全メモリーをバックグラウンドで定期的にスクリーニングするか指定します。	Enabled＝バックグラウンドメモリースクリーニングを有効にする Disabled＝バックグラウンドメモリースクリーニングを無効にする
IMC Interleaving (Auto / 1-Way / 2-Way)		Integrated Memory Controllers (IMC) のインターリーピングを指定します。このオプションを使用して、メモリー構成に応じてシステムパフォーマンスを構造できます。	Auto＝使用可能なメモリー構成に応じて、BIOSでインターリーピングを自動的に選択する 1-Way＝1-Wayインターリーピングを選択します 2-Way＝2-Wayインターリーピングを選択します
Sub NUMA Clustering (Enabled / Disabled / Auto)		Sub NUMA Clustering (SNC) は、LLC (Last Level Cache)をアドレス範囲に基づいてばらばらのクラスタに分割する機能です。LLCからローカルメモリーまで平均レイテンシを向上します。	Enabled＝フルSub NUMA Clustering、つまり、1-Way インターリーピングの2クラスタをサポートします。 Disabled＝Sub NUMA Clusteringを無効にする Auto＝IMCインターリーピングの選択によって、1クラスタまたは2クラスタがサポートされます。IMCインターリーピングが「Auto」の場合も、2-Wayインターリーピングの1クラスタがサポートされます
Onboard Device Configuration			
Onboard SAS/SATA (SCU) (Enabled / Disabled)		オンボードSAS/SATAストレージコントローラーユニット(SCU)の動作を指定します。	Enabled＝SCUを有効にする Disabled＝SCUを無効にする
	SAS/SATA OpROM (Enabled / Disabled)	Onboard SAS/SATA (SCU)がEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATAコントローラーのOption ROM動作を指定します。	Enabled＝Option ROMを有効にする Disabled＝Option ROMを無効にする
	SAS/SATA Driver (LSI MegaRAID / Intel RSTe)	SAS/SATA OpROMがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATAコントローラーのOption ROMの種類を指定します。	LSI MegaRAID＝Embedded MegaRAID用Option ROMを使用する Intel RSTe＝Intel RSTe用Option ROMを使用する
Flexible LOM		Flexible LOM (OCP) のポートを使用するか指定します。	Enabled＝すべてのFlexible LOMのポートを有効にする

項目名		説明	設定値
	(Enabled / Disabled)		Disabled=Flexible LOMのポートを無効にする
	Flexible LOM Oprom (Enabled / Disabled)	Flexible LOM アダプターの Legacy Option ROM を起動するかどうかを指定します。 レガシー、つまり非 UEFI Option ROM のみ有効です。UEFI Option ROM はこの選択により影響を受けません。	Enabled=Legacy Option ROM を起動する Disabled=Legacy Option ROM を起動しない
	LAN Controller (LAN 1 / LAN 1 & 2 / Disabled)	機能させる LAN コントローラーを指定します。  注意 サーバーのモデルによって、BIOS の設定値が「Disabled / Enabled」になっている場合があります。BIOS の設定値を「Enabled」にしたい場合、本項目で「LAN 1」を指定してください。	LAN 1=LAN 1 コントローラーを有効にし、LAN 2 コントローラーを無効にする LAN 1 & 2=両方の LAN コントローラーを有効にする Disabled=両方の LAN コントローラーを無効にする
	LAN 1 Oprom (Disabled / PXE / iSCSI)	Option ROM を起動するかどうかを指定します。起動する場合は Option ROM のタイプを指定します。 BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートデバイスとして LAN コントローラーを使用できます。  注意 サーバーのモデルによって、BIOS の設定値が「Disabled / Enabled」になっている場合があります。BIOS の設定値を「Enabled」にしたい場合、本項目で「PXE」を指定してください。	Disabled=Option ROM を起動しない PXE=PXE Option ROM を起動する iSCSI=iSCSI Option ROM を起動する
	LAN 2 Oprom (Disabled / PXE / iSCSI)	Option ROM を起動するかどうかを指定します。起動する場合は Option ROM のタイプを指定します。 BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートデバイスとして LAN コントローラーを使用できます。  注意 サーバーのモデルによって、LAN 2 コントローラーがない場合があります。その場合、本項目を無効化してください。 サーバーのモデルによって、BIOS の設定値が「Disabled / Enabled」になっている場合があります。BIOS の設定値を「Enabled」にしたい場合、本項目で「PXE」を指定してください。	Disabled=Option ROM を起動しない PXE=PXE Option ROM を起動する iSCSI=iSCSI Option ROM を起動する

項目名		説明	設定値
SATA Configuration			
	SATA Mode (Disabled / IDE / AHCI / RAID)	SATAインターフェイスの動作モードを指定します。	Disabled＝動作モードを無効にする IDE＝IDEモードで動作する AHCI＝AHCIモードで動作する RAID＝RAIDモードで動作する
	SATA Controller (Enabled / Disabled)	SATAコントローラーを有効または無効にします。	Enabled＝SATAコントローラーを有効にする Disabled＝SATAコントローラーを無効にする
	SSATA Controller (Enabled / Disabled)	SSATAコントローラーを有効または無効にします。	Enabled＝SSATAコントローラーを有効にする Disabled＝SSATAコントローラーを無効にする
Option ROM Configuration			
	Launch Slot X OpROM (Enabled / Disabled)	各PCIスロットに搭載されたオプションカードの拡張ROM実行を指定します。 プロファイルでは多くのスロットに対して指定できますが、実機上に存在しないスロットに対しては設定しないでください。	Enabled＝拡張ROMを実行する Disabled＝拡張ROMを実行しない [注1]
CSM Configuration			
	Launch CSM (Enabled / Disabled)	CSM (Compatibility Support Module) を実行するかどうかを指定します。 CSM がロードされている場合のみ、レガシーオペレーティングシステムを起動できます。	Enabled＝CSMを実行する Disabled＝CSMを実行しない [注2]
	Boot Option Filter (UEFI and Legacy / UEFI only / Legacy only)	どちらのドライブからブートできるかを指定します。	UEFI and Legacy＝UEFI OSドライブおよび Legacy OSドライブからブート可能 UEFI only＝UEFI OSドライブからのみブート可能 [注3] Legacy only＝Legacy OSドライブからのみブート可能 [注3]
	Launch PXE OpRom Policy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	起動する PXE Option ROM を指定します。 PXE ブートの場合は、使用可能な通常の (Legacy) PXE ブートおよび UEFI PXE ブートがあります。	UEFI only＝UEFI Option ROM のみ起動する [注3][注4] Legacy only＝Legacy Option ROM のみ起動する [注3] Do not launch＝Option ROM を起動しない [注5]
	Launch Storage OpRom Policy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	起動する Storage Option ROM を指定します。	UEFI only＝UEFI Storage Option ROM のみ起動する Legacy only＝Legacy Storage Option ROM のみ起動する Do not launch＝Storage Option ROM を起動しない

項目名		説明	設定値
	Other PCI Device Rom Priority (UEFI only / Legacy only)	ネットワーク、マスのストレージデバイス、ビデオ以外のデバイスで起動する Option ROM を指定します。	UEFI only=UEFI Option ROM のみ起動する Legacy only=Legacy Option ROM のみ起動する
USB Configuration			
	Onboard USB Controllers (Enabled / Disabled)	システムボードのUSBコントローラーを有効または無効にできます。 オンボードUSBコントローラーが無効な場合は、接続されるすべてのUSBデバイスを使用できません。ローカル接続されるキーボード、マウス、大容量ストレージに加え、iRMCを使用するキーボード、マウス、大容量ストレージや、内部接続USBデバイスも使用できません。	Disabled=オンボードUSBコントローラーを無効にする Enabled=オンボードUSBコントローラーを有効にする
Network Stack			
	Network Stack (Enabled / Disabled)	UEFI Network Stack を UEFI でネットワークアクセスに使用できるかどうかを設定します。	Disabled=UEFI ネットワークスタックの使用を許可しない [注2][注4] Enabled=UEFI ネットワークスタックの使用を許可する
	IPv4 PXE Support (Enabled / Disabled)	IPv4 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。	Disabled=IPv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない Enabled=IPv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可する
	IPv6 PXE Support (Enabled / Disabled)	IPv6 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。	Disabled=IPv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない Enabled=IPv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可する
Secure Boot Configuration			
	Secure Boot Control (Enabled / Disabled)	署名されていないブートローダ/UEFI OpROMのブートを許可するかどうかを指定します。  注意 本設定はハードウェアの仕様として Disabled にできない場合があります。その場合、サーバーの BIOS インターフェイスから値を設定してください。	Disabled=すべてのブートローダ/OpROM (Legacy/UEFI) を実行する Enabled=署名されたブートローダ/UEFI OpROM のブートのみの許可する
Server Mgmt			
	Sync RTC with MMB (Enabled / Disabled) (PRIMERGY BX シリーズのみ)	Real Time Clock をマネジメントブレードと同期させるかどうかを指定します。	Disabled=同期しない Enabled=同期する
	Adjust Date Time (Local Time / UTC)	プロファイル適用時に、サーバーの時刻を管理サーバーの時刻を基準にして変更します。 Sync RTC with MMB が Disabled の場合のみ設定できます。	Local Time=管理サーバーのタイムゾーン設定に応じた時刻を指定する

項目名	説明	設定値
	 注意 本項目はサーバーのBIOSセットアップユーティリティの設定項目ではありません。 BIOS設定を変更するのではなく、対象サーバーの時刻(RTC)をプロファイル適用時に一度だけ変更する機能であり、すべてのPRIMERGY BXシリーズで使用可能です。	UTC＝管理サーバーのタイムゾーン設定からUTCに変換した時刻を指定する

[注1]:PXEブートに使用するPCIカードスロットのLaunch Slot X OpROM が"Disabled"の場合、サーバーのモデルによって、PXEブートに失敗することがあります。

[注2]:Launch CSMとNetwork Stackが共に"Disabled"の場合、OSインストールに失敗します。

[注3]:Boot Option Filterが"UEFI only"または"Legacy only"で、Boot Option FilterとLaunch PXE OpRom Policyが一致しない場合、OSインストールに失敗します。

[注4]:Launch PXE OpRom Policyが"UEFI only"でNetworkStackが"Disabled"の場合、OSインストールに失敗します。

[注5]:Launch PXE OpRom Policyが"Do not launch"の場合、OSインストールに失敗します。

iRMCタブ

項目名	説明	設定値
iRMC GUI		
デフォルト言語 (英語 / ドイツ語 / 日本語)	言語の初期設定を行います。 次回 iRMC Web インターフェイスを呼び出す際に有効になります。	英語＝デフォルト言語を英語にする ドイツ語＝デフォルト言語をドイツ語にする 日本語＝デフォルト言語を日本語にする
電源制御		
POSTエラー時の動作 (継続起動 / 起動停止)	サーバー起動時にエラーが発生した場合の対応動作を設定します。	継続起動＝エラーが発生しても、起動処理を続ける 起動停止＝エラーが発生すると、キー入力があるまで起動を停止する
電源復旧時動作設定 (電源断前の状態に戻す / 電源投入しない / 電源投入する)	AC電源入力が切断されたあと、電源復旧した際の電源動作を設定します。	電源断前の状態に戻す＝電源切断発生時の状態を保持する(切断時にサーバーが電源オン中だった場合は電源投入する。電源オフ中だった場合は電源投入しない) 電源投入しない＝常に電源オフになる 電源投入する＝常に電源オンになる
電力制御 (OSによるコントロール / 省電力動作)	サーバーの省電力動作や静音動作に関する設定を行います。	OSによるコントロール＝OSの制御に従う 省電力動作＝消費電力を抑えることを優先した動作となる

項目名		説明	設定値
		 注意 BIOS設定で、Enhanced Speed Stepを無効に設定した場合、本制御も無効となります。	(スケジュール)＝プロファイル管理では設定できない (電力制限)＝プロファイル管理では設定できない
	消費電力監視(有効 / 無効) [注3]	消費電力の時間経過の監視の有効 / 無効を指定します。	有効＝消費電力監視を行う 無効＝消費電力監視を行わない
ファンテスト			
	ファン確認時刻	ファンテストを実行する場合に有効になります。	ファンテストの開始時刻を入力する。
	ファンテスト無効化	定期的なファンの診断を行うかどうかを設定します。	(チェックあり)＝ファンテストを行わない (チェックなし)＝毎日指定した時刻にテストを行う
ソフトウェアウォッチドッグ			
	ソフトウェアウォッチドッグ(有効 / 無効)	ソフトウェアウォッチドッグで、OS動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。  注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。	有効＝通信監視を行う 無効＝通信監視を行わない
	動作	通信が行えない場合の動作を指定します。  注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。	プルダウンから以下を選択する。 継続起動＝特に何も行わない リセット＝サーバーの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバーを電源オフにしたあと、電源オンを行う
	タイムアウト時間	通信できないと判断する時間を指定します。  注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。	1～100分までの数値を指定する。
Bootウォッチドッグ			
	Bootウォッチドッグ(有効 / 無効)	Bootウォッチドッグで、POST終了後からOS起動までの時間を監視するかどうかを指定します。  注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。	有効＝時間監視を行う 無効＝時間監視を行わない
	動作	指定した時間内にOSが起動しない場合の動作を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 継続起動＝特に何も行わない

項目名		説明	設定値
		 注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。	リセット＝サーバーの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバーを電源オフにしたあと、電源オンを行う
	タイムアウト時間	OSが起動しないと判断する時間を指定します。  注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。	1～100分までの数値を指定する。
時刻			
タイムモード (システムRTC / NTPサーバー)		iRMC の時刻設定を管理対象サーバーから取得する、またはNTPサーバーから取得するかどうかを指定します。	System RTC＝管理対象サーバーのシステムクロックからiRMCの時刻を取得する NTP Server＝ネットワークタイムプロトコル(NTP)を使用して独自の時刻を参照時刻ソースとして動作する NTP サーバーとiRMCの時刻を同期する
	RTCモード (ローカルタイム / UTC)	iRMC の時刻を UTC(協定世界時)形式で表示する、またはローカルタイム形式で表示するかを選択できます。	ローカルタイム＝iRMCの時刻をローカルタイム形式で表示する UTC＝iRMC の時刻を UTC(協定世界時)形式で表示する
	NTPサーバー 0	プライマリー NTP サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力する。
	NTPサーバー 1	セカンダリー NTP サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力する。
タイムゾーン		サーバーのある場所に対応するタイムゾーンを設定できます。	プルダウンから選択する。
ポート番号とネットワークサービス設定			
Telnet 有効(有効 / 無効)		Telnet接続を有効にするかどうかを指定します。	有効＝Telnet接続を有効にする 無効＝Telnet接続を無効にする
Telnet ポート (初期値: 3172)		iRMCのTelnetポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は3172
SSH 有効(有効 / 無効)		ssh接続を有効にするかどうかを指定します。	有効＝ssh接続を有効にする 無効＝ssh接続を無効にする
SSH ポート (初期値: 22)		sshのTelnetポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は22
セッションドロップアウト時間(有効 / 無効) [注3]		セッションドロップアウト時間を指定します。	0～120分までの数値を指定する。 0＝セッションタイムアウト無効
SNMP 一般設定			
SNMP 有効		SNMPを有効にするかどうかを指定します。	有効＝SNMPを有効にする 無効＝SNMPを無効にする

項目名	説明	設定値
	 注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
SNMPポート(初期値: 161)	SNMP サービスが待機しているポート番号を指定します。  注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	ポート番号を入力する。 初期値は UDP 161
SNMPサービスプロトコル (全て(SNMPv1/v2c/v3)/SNMPv3のみ)	SNMPサービスプロトコルを指定します。  注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	全て(SNMPv1/v2c/v3)=全プロトコルサポート (SNMPv1/v2c/v3) SNMPv3のみ=SNMPv3のみサポート
SNMPv1/v2cコミュニティ名	SNMP v1/v2c の場合のコミュニティ文字列を指定します。  注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	コミュニティ文字列を入力する。
SNMPv3 ユーザー設定		
SNMPv3 有効 (有効 / 無効)	ユーザーに対して SNMPv3 サポートを有効にするかどうかを指定します。  注意 ・ SNMPv3ユーザーを作成／変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。	有効=SNMPv3サポートを有効にする 無効=SNMPv3サポートを無効にする

項目名	説明	設定値
	- SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 - iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
SNMPv3 アクセス権	ユーザーのアクセス権限を指定します。  注意 - SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。 - SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 - iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	常に読み取りのみとなる。
認証 (SHA / MD5 / 無効 / SHA256 / SHA384 / SHA512)	SNMPv3 が認証に使用する認証プロトコルを選択します。  注意 - SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。 - SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 - iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	SHA=SHAを使用する MD5=MD5を使用する 無効=認証を無効にする SHA256=SHA256を使用する SHA384=SHA384を使用する SHA512=SHA512を使用する
暗号化 (AES / DES / 無効)	SNMPv3がSNMPv3トラフィックの暗号化に使用する暗号化プロトコルを指定します。  注意 SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。	AES=AESを使用する DES=DESを使用する 無効=暗号化を無効にする

項目名		説明	設定値
		SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
SNMPトラップ送信先			
	SNMPトラップコミュニティ	SNMPトラップコミュニティを指定します。	SNMPトラップコミュニティ文字列を入力する。
	SNMPユーザー	SNMPv3トラップ送信先に定義済みのSNMPv3ユーザーを指定します。  注意 - 本項目で指定するユーザーは、あらかじめiRMC上に作成されている必要があります。 - iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。 	SNMPユーザー文字列を入力する。
	送信先SNMPサーバー 1-7	「トラップ送信先」として設定するコミュニティに属するサーバーのDNS名またはIPアドレスを指定します。	SNMPサーバーのIPアドレス、またはDNS文字列を入力する。
	プロトコル	トラップの受信に使用するSNMPプロトコルバージョンを指定します。  注意 iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。 	プルダウンから以下を選択する。 SNMPv1、SNMPv2c、SNMPv3
AIS Connect			
	AIS Connect	AIS Connect を有効にするかを指定します。	有効＝AIS Connectを有効にする 無効＝AIS Connectを無効にする
	サービスモード	Service Mode を有効にするかを指定します。	有効＝Service Modeを有効にする 無効＝Service Modeを無効にする

項目名		説明	設定値
	国名	AIS Connect RP (Reverse Proxy) 国を指定します。	プルダウンから国名を選択する。
	リモートセッション	リモートセッションを有効にするかを指定します。	許可＝リモートセッションを許可する 拒否＝リモートセッションを拒否する
	プロキシサーバー	HTTP プロキシサーバーを使用するかを指定します。	(チェックあり)＝プロキシを使用する (チェックなし)＝プロキシを使用しない
プロキシサーバー			
	アドレス	プロキシサーバーの IP アドレス、またはプロキシサーバー名を指定します。	IPアドレス、またはプロキシサーバー名文字列を入力する。
	ポート番号 (初期値: 81)	プロキシサービスのポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は81
	ユーザー名	プロキシサーバーで認証するユーザー名を指定します。	プロキシユーザー名文字列を入力する。
	パスワード	プロキシサーバーで認証するパスワードを指定します。	パスワード文字列を入力する。
DNS			
	DNS	iRMC の DNS を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝DNSを有効にする (チェックなし)＝DNSを無効にする
	DNS 設定	DHCPからDNS構成を取得するかを指定します。  注意 「DNS ドメイン」「DNS 検索パス」「DNS サーバー 1-3」を設定する場合、本項目で(チェックなし)を指定してください。 本項目を有効にする場合、事前にDHCPを有効にしてください。	(チェックあり)＝DHCPサーバーからDNS構成を取得する (チェックなし)＝DHCPサーバーからDNS構成を取得しない
	DNS ドメイン	DNS サーバーへの要求に対するデフォルトドメインの名前を指定します。	DNSドメイン文字列を入力する。
	DNS 検索パス	DNS検索パスをリストで指定します。	DNS検索パス文字列を入力する。
	DNS サーバー 1-3	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。	DNS IPアドレス文字列を入力する。
	DNS リトライ	DNS リトライ回数を指定します。	1～5回までの数値を指定する。 初期値は 2
	DNS タイムアウト	DNS 応答のタイムアウト(秒)を指定します。	1～30秒までの数値を指定する。 初期値は 5
DNS名登録			
	DNS名登録	iRMC の DNS 名の設定方法を指定します。	なし＝iRMC に名前を登録しない

項目名		説明	設定値
			DHCP アドレスを DNS に登録＝ DHCP サーバーへの DHCP 名の 転送を有効にする DHCP サーバーによる 完全修飾 ドメイン名 を DNS へ登録＝ DHCP サーバーへの FQDN の転 送を有効にする 動的 DNS 有効＝動的 DNS を使 用した DNS レコードのアップデー トを有効にする
iRMC名の使用 (有効 / 無効)		「iRMC名」に指定された文字列が、サー バー名の代わりに iRMC に使用されます。	(チェックあり)＝iRMC名を使用 する (チェックなし)＝iRMC名を使用し ない
	iRMC名	DNS名の一部として使用されるiRMC名を指 定します。  注意 下記以外の場合、ドット(.)は期待通りの動作 をしないため、指定しないでください。 PRIMERGY RX/TX/CX M4 以 降、 PRIMEQUEST 3000B	iRMC名 文字列を入力する。
MACアドレスを使用		iRMC の MAC アドレスの最後の 3 バイトを iRMC の DHCP 名に付加するかを指定しま す。	(チェックあり)＝MACアドレスを DNS名に付加する (チェックなし)＝MACアドレスを DNS名に付加しない
拡張子を使う		「拡張子名」に指定された拡張子を、iRMC の DHCP 名に付加するかを指定します。	(チェックあり)＝拡張子を付加す る (チェックなし)＝拡張子を付加し ない
	拡張子	iRMC の拡張子名を指定します。	拡張子文字列を入力する。
Simple Service Discovery Protocol (SSDP)			
	SSDP	SSDP 経由での自動検出を有効にするかを 指定します。	(チェックあり)＝自動検出する (チェックなし)＝自動検出しない
中央認証サービス(CAS)			
	CAS サポート	CASを有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝CASを有効にし る (チェックなし)＝CASを無効にし る
CAS サーバー [注1]			
	サーバー	CASサーバーのDNS名またはIPアドレスを 指定します。	CASサーバーのIPアドレス、また はDNS文字列を入力する。
	ネットワークポート	CAS サービスが待機しているポート番号を 指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は 3170

項目名		説明	設定値
	SSL証明書確認	SSL証明書確認を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = SSL証明書確認を有効にする (チェックなし) = SSL証明書確認を無効にする
	ログインページ表示	ログインページを常に表示するかを指定します。	(チェックあり) = ログインページを常に表示する (チェックなし) = ログインページを常に表示しない
	ログインURL	ログインURLを指定します。	ログインURLを入力する。 初期値は /cas/login
	ログアウトURL	ログアウトURLを指定します。	ログアウトURLを入力する。 初期値は /cas/logout
	認証URL	認証URLを指定します。	認証URLを入力する。 初期値は /cas/validate
	アクセス許可の割り当て	アクセス許可を指定します。	常にローカルとなる。
ユーザー権限とパーミッション [注1]			
	権限レベル	ユーザーの権限レベルを指定します。	ユーザー = ユーザー権限を使用する オペレーター = オペレーター権限を使用する 管理者 = 管理者権限を使用する OEM = OEM権限を使用する
	Redfishロール	Redfishロールを指定します。	管理者 = 管理者ロールを使用する オペレーター = オペレーターロールを使用する リードオンリー = リードオンリーロールを使用する No Access = Redfishを使用しない
	ユーザーアカウント変更	ユーザー変更権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = ユーザー変更権限を有効にする (チェックなし) = ユーザー変更権限を無効にする
	iRMC設定変更	iRMC設定変更権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = iRMC設定変更権限を有効にする (チェックなし) = iRMC設定変更権限を無効にする
	ビデオリダイレクション使用	ビデオリダイレクション使用権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = ビデオリダイレクション使用権限を有効にする (チェックなし) = ビデオリダイレクション使用権限を無効にする
	リモートストレージ使用	リモートストレージ使用権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = リモートストレージ使用権限を有効にする

項目名		説明	設定値
			(チェックなし) = リモートストレージ 使用権限を無効にする
BIOSバックアップ設定			
	自動BIOSパラメーターバックアップ	自動BIOSパラメーターバックアップを有効にするかを指定します。  注意 設定はサーバー再起動後に有効となります。 	(チェックあり) = 自動BIOSパラメーターバックアップを有効にする (チェックなし) = 自動BIOSパラメーターバックアップを無効にする
アップデート [注2]			
	リポジトリの場所	eLCMアップデートに使用するアップデートリポジトリのURLを指定します。	アップデートリポジトリのURLを入力する。 初期値は「https://support.ts.fujitsu.com」
	プロキシサーバー	アップデートリポジトリへの接続にプロキシサーバーを使用するかを指定します。	(チェックあり) = プロキシサーバーを使用する (チェックなし) = プロキシサーバーを使用しない
	VMware HCL確認	VMware ハードウェア互換性検証をスキップするかを指定します。	(チェックあり) = スキップする (チェックなし) = スキップしない
	SSL/TLS証明書有効性確認	SSL/TLS証明書有効性確認をスキップするかを指定します。	(チェックあり) = スキップする (チェックなし) = スキップしない
デプロイメント [注2]			
	リポジトリの場所	eLCMアップデートに使用するデプロイメントリポジトリのURLを指定します。	デプロイメントリポジトリのURLを入力する。 初期値は「https://webdownloads.ts.fujitsu.com」
	プロキシサーバー	デプロイメントリポジトリへの接続にプロキシサーバーを使用するかを指定します。	(チェックあり) = プロキシサーバーを使用する (チェックなし) = プロキシサーバーを使用しない
	SSL/TLS証明書有効性確認	SSL/TLS証明書有効性確認をスキップするかを指定します。	(チェックあり) = スキップする (チェックなし) = スキップしない
Webアクセス [注3]			
	HTTPS接続のみにする(有効 / 無効)	HTTPSの使用方法について指定します。	有効 = HTTPS接続のみ 無効 = HTTP接続可能
	セキュリティプロトコル	セキュリティプロトコルについて指定します。	
	TLS 1.1(有効 / 無効)	TLS 1.1の有効 / 無効を指定します	有効 = TLS 1.1有効 無効 = TLS 1.1無効
	TLS 1.2(有効 / 無効)	TLS 1.2の有効 / 無効を指定します	有効 = TLS 1.2有効 無効 = TLS 1.2無効
AVR (Advanced Video Redirection) [注3]			

項目名		説明	設定値
	KVMリダイレクションタイプ	KVMリダイレクションタイプを指定します。	JViewer (JAVA)=Java経由でのAVRを使用 HTML5 Viewer=HTML5経由でのAVRを使用 VNC=VNCで接続
	ウィンドウタイトル	AVRのウィンドウタイトルを指定します。	ウィンドウに表示したいパラメータを入力する。 初期値は「%USER%@%BMC_NAME%」
BIOSコンソールリダイレクション [注3]			
	コンソールリダイレクション(有効/無効)	コンソールリダイレクションの有効/無効を指定します。	有効=コンソールリダイレクションを有効にします 無効=コンソールリダイレクションを無効にします
	シリアルポートボーレート	シリアルポートのボーレートを指定します。	以下のボーレートを指定します。 9600 / 19200 / 38400 / 57600 / 115200
	シリアルポートフロー制御	シリアルポートのフロー制御を指定します。	フロー制御なし=フロー制御を行わない CTS/RTS (ハードウェア)=通信制御がハードウェアによって行われる
	シリアル1マルチプレクサ	マルチプレクサの設定との整合性を指定します。	システム=Serial iRMC=LAN
ユーザー管理 [注3]			
	Adminパスワードの変更	Adminユーザーのパスワードを指定します。  注意 設定する場合は、ノード登録時(通信方法)に指定したユーザーにadmin以外のユーザーを指定してください。adminを指定していた場合、ノードへの通信ができなくなります。	パスワード文字列を入力する。
	LDAP(有効/無効)	LDAPの有効/無効を指定します。	有効=LDAPを有効にする 無効=LDAPを無効にする
	LDAP SSL/TLS(有効/無効)	LDAP SSL/TLSの有効/無効を指定します。	有効=LDAP SSL/TLSを有効にする 無効=LDAP SSL/TLSを無効にする
	プライマリ LDAPサーバー	プライマリ LDAPサーバーを指定します。	プライマリ LDAPサーバー文字列を入力する。
	権限タイプ	権限タイプを指定します。	以下を選択する。 LDAPサーバーでの認証設定によるServerView LDAPグループ

項目名		説明	設定値
			iRMCでの認証設定による標準LDAPグループ
	ドメイン名	ドメイン名を指定します。	ドメイン名文字列を入力する。
	ベースDN配下のグループディレクトリ	ベースDN配下のグループディレクトリを指定します。	グループディレクトリ文字列を入力する。
	認証LDAPユーザー名	認証LDAPユーザー名を指定します。	認証LDAPユーザー名文字列を入力する。
	認証LDAPパスワード	認証LDAPユーザーのパスワードを指定します。	認証LDAPユーザーのパスワード文字列を入力する。
	ユーザーグループ名	LDAPユーザーグループを指定します。 「権限タイプ」に「iRMCでの認証設定による標準LDAPグループ」を指定した場合のみ指定できます。  注意 ノード側にユーザーグループが作成されていない場合のみ指定してください。すでにユーザーグループが存在する場合、ノード側にはユーザーグループは作成されません。 	LDAPユーザーグループ文字列を入力する。
ネットワーク制御 [注3]			
	IPv6 プロトコル (有効 / 無効)	IPv6 プロトコルの有効 / 無効を指定します。	有効=IPv6 プロトコルを有効にする 無効=IPv6 プロトコルを無効にする
サーバー管理 [注3]			
	HP SIM連携 (有効 / 無効)	HP System Insight Manager(HP SIM)連携の有効 / 無効を指定します。	有効=HP SIM 連携を有効にする 無効=HP SIM 連携を無効にする
	Get System GUIDコマンドの応答フォーマット	Get System GUIDコマンドの応答フォーマットを指定します。	以下を選択する。 IPMI仕様互換 SMBIOS 2.6仕様互換

[注1]:「CAS サーバー」「ユーザー権限とパーミッション」を設定する場合、本項目で(チェックあり)を指定してください。

[注2]:「アップデート」「デプロイメント」を設定する場合、対象サーバーにeLCMライセンスの登録と、SDカードの搭載が必要です。

[注3]:PRIMERGY BXシリーズは、対象外です。

第2章 PRIMEQUEST 2000(パーティション)・PRIMEQUEST 2000B・PRIMEQUEST 3000Eシリーズ パーティション用プロファイルの MMB 設定項目

プロファイル中のMMBタブで設定可能な項目を記載します。

MMBタブ

項目名		説明	設定値
Automatic Server Restart			
対象とする		ASR (Automatic Server Restart)を設定するかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
	Number of Restart Tries	ウォッチドッグやハードウェアエラーでOSがシャットダウンした場合に、OSをリスタートするリトライ回数を設定します。	再起動の有無の選択、および回数(1～10)を指定する。
	Action after exceeding Restart tries	上記リトライ回数を超えた場合の動作を設定します。	電源OFF=リブート処理を止め、パーティションの電源をOFFにする(Stop rebooting and Power off) 停止=リブート処理を止め、パーティションを停止する(Stop rebooting) NMI割込み=リブート処理を止め、パーティションに対してNMI割込みを指示する(Diagnostic Interrupt assert)
Boot Watchdog			
対象とする		ブートウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
	Boot Watchdog	ブートウォッチドッグの有効/無効化のことです。 OS起動までの時間を監視するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 時間監視を行う (チェックなし) = 時間監視を行わない
	Timeout time(seconds)	ここで指定した時間を超えてOSが起動しない場合に異常と判断されます。	1～6000秒までの数値を指定する。
	Action when watchdog expires	指定した時間を超えてOSが起動しない場合の動作を指定します。	Continue(継続稼働)=処理を継続する Reset(リセット)=再起動を行う Power Cycle(パワーサイクル)=一度電源OFFしたあと、電源ONを行う
Software Watchdog			
対象とする		ソフトウェアウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
	Software Watchdog	ソフトウェアウォッチドッグの有効/無効化のことです。 OS動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 通信チェックを行う (チェックなし) = 通信チェックを行わない

項目名				説明	設定値
			Timeout time(seconds)	ここで指定した時間を超えて通信ができない場合に異常と判断されます。	1～6000秒までの数値を指定する。
			Action when watchdog expires	指定した時間を超えて通信ができない場合の動作を指定します。	Continue(継続稼働)=処理を継続する Reset(リセット)=再起動を行う Power Cycle(パワーサイクル)=一度電源OFFしたあと、電源ONを行う NMI=NMIを発生させる

第3章 サーバー用プロファイルのOS設定項目

プロファイル中のOS/OS個別情報タブで設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定をしなくてもOSのインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、OSのデフォルトの設定が適用されます。

ポリシーを事前作成することでプロファイル作成に利用できますが、ポリシー設定不可の記載がある項目は、ポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.1 Windows Server用プロファイル

プロファイルで指定できるOSについては、当社の本製品Webサイトで『管理対象機器一覧』を参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール形式			
	インストール方法	インストール方法を選択します。  注意 ・ eLCMを選択する場合、対象サーバーに eLCMライセンスの登録、SDカードの搭載、eIMのダウンロードが必要です。 ・ PRIMEQUEST2000-Partition、PRIMEQUEST2000B、PRIMEQUEST3000E-Partition の場合、eLCMは選択できません。 	プルダウンから選択する。
インストール指定			
	インストールのタイプ	OSをコアインストール、フルインストールのどちらでインストールするかを指定します。	画面から選択する。
	インストールメディア[注13] [注14]	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。 Microsoft社メディアを選択した場合は、さらにプロダクトキーの入力が必要。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVDの版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンのServerView Suiteを使用する 版数を指定する＝指定した版数のServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。[注1] [注2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。	画面から選択する。 カードが搭載されているスロット番号を入力する。

項目名				説明	設定値
			使用するネットワークカードの種類を選択します。		
		ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。	
		MACアドレス [注13]	指定方法で、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。	
	ブートモード指定		ブートモードを指定します。	(チェックあり)＝ブート種別を指定する	
		ブート種別	サーバーのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。	
RAIDとディスクの構成					
	アレイコントローラーを使用する		サーバー内蔵のアレイコントローラーをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラーを使用する [注3]	
		既存アレイ構成を使用する (RAIDを使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時)＝既存のアレイ構成を使用する	
		アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時)＝アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。	
	アレイコントローラーを使用しない		アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。 [注4]	
ボリューム1					
	ボリュームラベル		ボリューム名を指定します。 [注5]	ボリューム名文字列を入力する。 [注6]	
	ファイルシステム		ファイルシステムの種類を選択します。	常にNTFSとなる。	
	パーティションサイズ(自動／指定)		パーティションのサイズを指定します。	自動＝自動的に適切なサイズでパーティションを作成する 指定＝入力したサイズでパーティションを作成する	
	クイックフォーマット		パーティションのフォーマット時にクイックフォーマットを利用するかどうかを指定します。	する＝クイックフォーマットを行う しない＝通常のフォーマットを行う (作業時間は長くなる)	
	利用形態		パーティションの用途を指定します。	常にBoot、OSとなる。	
基本設定					
	タイムゾーン		タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。	
	地域と言語		地域と言語を指定します。	プルダウンから選択する。	
	キーボード		キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。	
システム設定					
	画面解像度 [px]		OSインストール直後の画面解像度を指定します。	プルダウンから選択する。 [注7]	

項目名		説明	設定値
			例: 600×480、800×600、1024×768、1280×1024
	リフレッシュレート [Hz]	OSインストール直後のディスプレイのリフレッシュレートを指定します。	プルダウンから選択する。[注7]
	画面の色数 [bit]	OSインストール直後の画面の表示色数をビット数で指定します。	プルダウンから選択する。[注7]
役割と機能の追加			
	SNMPサービスのインストール	SNMPサービスをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMPサービスをインストールする
	SNMPトラップ設定	SNMPトラップ送信時のコミュニティ名とトラップ送信先を指定します。	追加ボタンを選択して任意の数の設定を行う。 【省略可】
	コミュニティ名	SNMPトラップ送信時のコミュニティ名を指定します。	送信時のコミュニティ名文字列を入力する。
	トラップ送信先	SNMPトラップの送信先を指定します。	送信先のIPアドレス文字列を入力する。
	SNMPセキュリティサービス [注15]	受け付けるSNMPコミュニティ名とその権利を指定します。	追加ボタンを選択して任意の数の設定を行う。 【省略可】
	受け付けるコミュニティ名	受け付けるSNMPコミュニティ名を指定します。	受け付けるコミュニティ名文字列を入力する。
	コミュニティの権利	受け付けるSNMPコミュニティの権利を指定します。	プルダウンから選択する。 None = なし Read Create = 読み取り、作成 Read Write = 読み取り、書き込み Read Only = 読み取りのみ Notify = 通知
	認証トラップの送信	未知のホストまたはコミュニティからのSNMP要求があった場合に認証トラップを送信するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 認証トラップを送信する (チェックなし) = 認証トラップを送信しない
	SNMPパケットの受付 (デフォルトのホストからSNMPパケットを受け付ける (LocalHost)/ これらのホストからSNMPパケットを受け付ける)	LocalhostからのSNMPパケットを受け付けるかどうかを指定します。	(デフォルトのホストからSNMPパケットを受け付ける (LocalHost)) = LocalhostからのSNMPパケットを受け付ける (これらのホストからSNMPパケットを受け付ける) = 次に指定したホスト名からのSNMPパケットを受け付ける。加えて、ホスト名を記載する
	SNMP設定エージェント	連絡先と物理的な位置を入力する。	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
	サービス	SNMPホストに関する情報を5つのオプションから指定します。	任意のサービスをチェックする。
	リモートデスクトップ	リモートデスクトップの利用可否を指定します。	(チェックあり) = リモートデスクトップを有効にする

項目名		説明	設定値
			(チェックなし)＝リモートデスクトップを無効にする
	リモートアシスタンス(インストールのタイプがフルの場合のみ)	リモートアシスタンスの利用可否を指定します。	許可する範囲を画面で指定する。 必要に応じて招待の有効時間も指定する。
	ファイアウォール設定	対象サーバーをSCVMMへ登録する際に必要となるファイアウォールの例外を作成します。 以下のアプリケーションからのアクセスが有効になります。 - Windows Management Instrumentation(WMI) - ファイルとプリンターの共有	(チェックあり)＝ファイアウォール例外を作成する (チェックなし)＝ファイアウォール例外を作成しない
	追加アプリケーション		
	Java Runtime Environment	Java Runtime Environmentをインストールするかどうかを指定します。 ServerView RAID Managerをインストールする場合には必ず指定してください。	(チェックあり)＝アプリケーションをインストールする [注8][注9]
	ServerViewエージェント	ServerViewエージェントをインストールするかどうかを指定します。 SNMPサービスをインストールする場合に指定できます。	(チェックあり)＝アプリケーションをインストールする [注10]
	ServerViewアップデートエージェント	ServerViewアップデートエージェントをインストールするかどうかを指定します。 ServerViewエージェントをインストールする場合に指定できます。	(チェックあり)＝アプリケーションをインストールする [注10]
	DSNAP	DSNAPをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝アプリケーションをインストールする [注11]
	ソフトウェアサポートガイド	ソフトウェアサポートガイドをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝アプリケーションをインストールする [注11]
	ServerView RAID Manager	ServerView RAID Managerをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝アプリケーションをインストールする
	インストール後のスクリプト実行		
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝インストール後にスクリプトを実行する
	OSに転送するディレクトリー	インストール後、OSに転送するディレクトリーを指定します。	インストール後、OSに転送するディレクトリーを指定する。
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。 [注12]	実行するスクリプトを指定する。

[注1]: CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを設定してください。

[注2]: PRIMEQUEST 2000(パーティション)・PRIMEQUEST 2000B・PRIMEQUEST 3000Eシリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MACアドレスを指定してください。

[注3]: アレイコントローラーを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。プロファイル適用を行うサーバーに複数のアレイコントローラーが搭載されている場合、構築対象のアレイコントローラー以外を無効にしてください。

- [注4]: iSCSIの対応状況は、サーバーとServerView Suite DVDのマニュアルを参照してください。
- [注5]: ServerView Suite DVD V11.16.04以降を使用した場合、ボリューム名が設定されないことがあります。その場合、ボリューム名を手動で設定してください。
- [注6]: Windows Server 2016の場合、ボリューム名は半角の英数字・記号で設定してください。
- [注7]: OSでサポートしていない値を設定した場合、デフォルト設定でインストールされます。
- [注8]: 「インストールのタイプ」設定でフルインストールを選択している場合のみインストール可能です。
- [注9]: ServerView Suite DVD V13.18.12以降では、指定してもインストールされません。
- [注10]: 「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の場合は英語でインストールされます。
- [注11]: 「地域と言語」設定で日本語を選択している場合のみインストール可能です。
- [注12]: Windowsの"cmd /c"コマンドにより、指定したスクリプトを実行します。
- [注13]: プロダクトキー、MACアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。
- [注14]: Windows Server 2019をインストールした後にOSにログインすると、以下のポップアップが表示されます。インストールは正常に終了しているため、「このプログラムは正しくインストールされました」を選択してください。
- メッセージ: このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります
- プログラム: SVIM Messenger
- [注15]: 「追加アプリケーション」設定でServerViewエージェントを選択した場合、ServerViewエージェントの動作に必要なSNMPコミュニティ(コミュニティ名: public)を自動的に設定します。コミュニティ名にpublicを指定した場合は、指定したpublicのみ設定します。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常に[OS]タブで指定したインストールメディアとなる。
ユーザー名		ユーザーの名前を入力します。	ユーザー名の文字列を入力する。
組織		ユーザーが属する組織を入力します。	組織の文字列を入力する。
コンピューター名 [注5]		ネットワーク上で識別するためのコンピューター名を入力します。	コンピューター名文字列を入力する。
Administratorパスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ワークグループ/ドメイン			
	ワークグループ/ドメイン		ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを選択します。 ワークグループ＝ワークグループに参加する ドメイン＝ドメインに参加する [注1]
	ワークグループ/ドメイン名		ワークグループまたはドメインの名前を指定します。 文字列を入力する。[注2]
		ドメインユーザー名	ドメインの場合、ドメインユーザー名を入力します。 文字列を入力する。
		ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力します。 文字列を入力する。[注3]
ネットワーク			
	DHCP		(チェックあり)＝DHCPを利用する (チェックなし)＝固定IPを指定する [注4]
		IPアドレス [注5]	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。 IPアドレスをIPv4形式で入力する。

項目名	説明	設定値
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する。
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSサーバー1	DHCPを利用しない場合、DNSサーバー1のIPアドレスを指定します。	DNSサーバーのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSサーバー2	DHCPを利用しない場合、DNSサーバー1を設定後、DNSサーバー2のIPアドレスを指定します。	DNSサーバーのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSドメイン名	DHCPを利用しない場合、任意のドメイン名を指定します。	ドメイン名を入力する。

[注1]:ドメインサーバーに接続できない場合、ワークグループに設定されます。

[注2]:ワークグループ名は、15文字以下で設定してください。全角は2文字、半角は1文字としてカウントします。

[注3]:ドメインユーザー名・ドメインパスワードを誤って指定した場合、プロファイル適用は正常に終了しますが、ドメイン参加に失敗します。この場合、ドメイン参加を再度実行してください。

[注4]:ポリシーで「DHCP」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのIPアドレスを設定してください。

[注5]:コンピューター名、IPアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.2 VMware ESXi用プロファイル

プロファイルで指定できるOSについては、当社の本製品Webサイトで『管理対象機器一覧』を参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

OSタブ

項目名	説明	設定値
インストール指定		
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVDの版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンのServerView Suiteを使用する 版数を指定する＝指定した版数のServerView Suiteを使用する
インストール情報		
インストール方法	インストール方法を選択します。  注意 ・ eLCMを選択する場合、対象サーバーにeLCMライセンスの登録、SDカードの搭載、eIMのダウンロードが必要です。 ・ PRIMEQUEST2000-Partition、PRIMEQUEST2000B、	プルダウンから選択する。

項目名		説明	設定値
		PRIMEQUEST3000E-Partition の場合、eLCMは選択できません。	
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。[注1] [注2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 カードが搭載されているスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス [注7]	指定方法で、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
ブートモード指定			
	ブートモード	ブートモードを指定します。	(チェックあり)＝ブート種別を指定する
	ブート種別	サーバーのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
RAIDとディスクの構成			
	アレイコントローラーを使用する	サーバー内蔵のアレイコントローラーをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラーを使用する [注3] [注4]
	既存アレイ構成を使用する (RAIDを使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時)＝既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時)＝アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。
	アレイコントローラーを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。[注5]
基本設定			
	キーボード	キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
ネットワーク			
	セットアップ	VM標準ネットワークでセットアップするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝標準ネットワークを作成する
	使用するVLAN ID	VLAN IDを入力します。VLANを使用しない場合は「0」を入力します。	VLAN IDを入力する。

項目名		説明	設定値
仮想化管理ソフトへの登録			
仮想化管理ソフトへの登録		ESXiのインストールが完了したあと、続けてvCenterへ自動的に登録するかどうかを指定します。 自動登録を行う場合、[OS個別情報]タブで設定するIPアドレスは固定IPアドレスを設定してください。また、[OS]タブではVLAN IDに「0」を指定してください。 [OS個別情報]タブで、コンピューター名とDNSドメイン名を指定した場合、FQDNを使って仮想化管理ソフトウェアへ登録します。 FQDNを使って仮想化管理ソフトウェアへ登録する場合、すべて小文字で登録されます。	(チェックあり) = 登録する (チェックなし) = 登録しない
	登録先仮想化管理ソフト名	登録先のvCenterを指定します。	事前に[設定]-[全般]-左側ツリー部で[仮想化管理ソフトウェア]を選択し、画面に登録した登録先から選択する。
	ホスト登録先のフォルダー名またはクラスタ名	登録先のフォルダー名またはクラスタ名を指定します。	登録先のフォルダー名またはクラスタ名を指定する。
インストール後のスクリプト実行			
インストール後のスクリプト実行		インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) = インストール後にスクリプトを実行する
	スクリプト格納ディレクトリー	インストール後に実行するスクリプトが格納されているディレクトリーを指定します。	インストール後に実行するスクリプトが格納されているディレクトリーを指定する。
	実行するスクリプト	インストール後に実行するスクリプトを指定します。[注6]	インストール後に実行するスクリプトを指定する。

[注1]: CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを設定してください。

[注2]: PRIMEQUEST 2000 (パーティション)・PRIMEQUEST 2000B・PRIMEQUEST 3000Eシリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MACアドレスを指定してください。

[注3]: アレイコントローラーを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。プロファイル適用を行うサーバーに複数のアレイコントローラーが搭載されている場合、構築対象のアレイコントローラー以外を無効にしてください。

[注4]: VMware ESXiでは、「オンボードSATAアレイコントローラー」は使用できません。

[注5]: iSCSIの対応状況は、サーバーとServerView Suite DVDのマニュアルを参照してください。

[注6]: ファイル中にプレーンテキスト形式でスクリプトを記述してください。自動インストール(kickStart)中の%post処理として実行されます。%firstboot --interpreter=busyboxの記述を行うと、%firstboot --interpreter=busybox処理として実行されます。

[注7]: MACアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

OS個別情報タブ

項目名	説明	設定値
ライセンス合意	VMware社のライセンスに合意するか選択します。	(チェックあり) = ライセンスに合意する

項目名	説明	設定値
	必ずチェックを付け、合意したことを示してください。	(チェックなし) = ライセンスに合意しない
インストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。
Rootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ネットワーク		
DHCP	管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCPを利用する (チェックなし) = 固定IPを指定する [注1]
IPアドレス [注2]	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する。
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSサーバー [注3]	DHCPを利用しない場合、DNSサーバーのIPアドレスを指定します。	DNSサーバーのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSドメイン名	DHCPを利用しない場合、任意のドメイン名を指定します。	ドメイン名を入力する。
コンピューター名をDNSサーバーから取得	DNSから取得したコンピューター名を利用するかどうかを指定します。 DHCPを利用する場合、コンピューター名をDNSサーバーから取得します。 DHCPを利用しない場合、コンピューター名を任意に指定します。	(チェックあり) = DNSから取得する (チェックなし) = 任意のコンピューター名を指定する [注4]
コンピューター名 [注2]	DNSからコンピューター名(ホスト名)を取得しない場合に任意のコンピューター名(ホスト名)を指定します。	ホスト名を入力する。

[注1]: ポリシーで「DHCP」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのIPアドレスを設定してください。

[注2]: IPアドレス、コンピューター名はポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

[注3]: DNSサーバーを複数設定したい場合は、インストール後に実行するスクリプトで設定してください。

「esxcli network ip dns server add --server=<DNSサーバーのIPアドレス>」を記述することで設定できます。

スクリプト記述例:

```
#!/bin/sh
%firstboot --interpreter=busybox
esxcli network ip dns server add --server=<DNSサーバーのIPアドレス>
```

[注4]: ポリシーで「コンピューター名をDNSサーバーから取得」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのコンピューター名を設定してください。

3.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル

プロファイルで指定できるOSについては、当社の本製品Webサイトで『管理対象機器一覧』を参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール指定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版でインストール/版数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVDの版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンのServerView Suiteを使用する 版数を指定する＝指定した版数のServerView Suiteを使用する
インストール情報			
	インストール方法	インストール方法を選択します。  注意 - eLCMを選択する場合、対象サーバーにeLCMライセンスの登録、SDカードの搭載、eIMのダウンロードが必要です。 - PRIMEQUEST2000-Partition、PRIMEQUEST2000B、PRIMEQUEST3000E-Partition の場合、eLCMは選択できません。 	プルダウンから選択する。
管理LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。[注1][注2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 カードが搭載されているスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス [注9]	指定方法で、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
	ブートモード指定	ブートモードを指定します。	(チェックあり)＝ブート種別を指定する
	ブート種別	サーバーのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
基本設定			
	地域と言語	言語を指定します。	プルダウンから選択する。
	キーボード	キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。

項目名		説明	設定値
	システムクロックでUTCを使用	システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり) = UTCを使用 (チェックなし) = ローカルタイムを使用
RAIDとディスクの構成			
	アレイコントローラーを使用する	サーバー内蔵のアレイコントローラーをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイコントローラーを使用する [注10]
	既存アレイ構成を使用する (RAIDを使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) = 既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) = アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
	アレイコントローラーを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。 [注3]
パーティション		下記の項目を「プロファイル」画面に表示された/boot、/varなどの各マウントポイントに対して指定します。	
	(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) = パーティションを作成する (チェックなし) = パーティションを作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する。 例 : ext2, ext3, ext4
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当てかどうかを指定します。 Linuxインストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	(チェックあり) = 指定のパーティションに余った容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし) = 指定した容量でパーティションを作成
パッケージ選択			
	パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期選択を変更します。	最小 = 必要最小限のパッケージ 全て = すべてのパッケージ [注4] デフォルト = 推奨パッケージ [注4]
	パッケージグループ	インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり) = インストールする (チェックなし) = インストールしない
	個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行あたり1パッケージで複数行の記述が可能。
基本情報			

項目名		説明	設定値
	X Window System	システムのブート時にX Window Systemを起動するかどうかを指定します。  注意 ServerView Suite DVD V13.19.12以前を使用する場合、本項目の指定にかかわらず、必ずX Window Systemを起動します。	(チェックあり) = X Window Systemを起動する (チェックなし) = X Window Systemを起動しない
	ブートローダーオプション		
	ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり) = ブートローダをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
	ブートローダのインストール場所	ブートローダのインストール先を指定します。	MBR = マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
	カーネルパラメーター	カーネルパラメーターを指定します。	カーネルパラメーターとして指定する文字列を入力する。 【省略可】
Security-Enhanced Linux			
	SE Linux	SE Linuxの使用有無を指定します。	プルダウンで以下から選択する。 Enforcing, Disabled, Permissive
認証			
	シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない [注5]
	MD5の使用	パスワード暗号化にMD5を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	nscdの有効	Name Switch Cacheを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
アプリケーション		OSインストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
	アプリケーション選択 (各種アプリケーション)	インストールするアプリケーションを指定します。 アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります。 [注6]	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) = インストール後にスクリプトを実行する
	OSに転送するディレクトリー	インストール後、OSに転送するディレクトリーを指定します。	インストール後、OSに転送するディレクトリーを指定する。
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。 [注7] [注8]	実行するスクリプトを指定する。

[注1]: CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを設定してください。

[注2]:PRIMEQUEST 2000(パーティション)・PRIMEQUEST 2000B・PRIMEQUEST 3000Eシリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MACアドレスを指定してください。

[注3]:iSCSIの対応状況は、サーバーとServerView Suite DVDのマニュアルを参照してください。

[注4]:ServerView Suite DVD V11.16.04以降を使用した場合、インストールされないパッケージグループがあります。その場合、手動でインストールしてください。

[注5]:「シャドウパスワード」は、プロファイル設定に関わらず常に有効になります。

[注6]:下表のアプリケーションはServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10を使用した場合です。将来的にServerView Suite DVDの改版によって変更されることがあります。

凡例:○=ISMで指定可、×=ISMで指定不可

アプリケーション	RHEL 6.x (x86)	RHEL 6.x (Intel64)	RHEL 7.x	RHEL 8.x
ServerView Agentless Service	×	○	○	○
ServerView SNMP Agents	○	○	○	○
ServerView CIM Providers	×	○	○	○
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○	○
ServerView Operations Manager (注:インストール時には、SELinuxをDisabledに設定) (注:iRMC S6以降のPRIMERGY、PRIMEQUEST モデルは未サポート)	○	○	○	○
ServerView RAID Manager	○	○	○	○
AIS Connect (注:ServerView Suite DVD V12.16.10以降では設定 不可)	○	○	×	×
Java Runtime Environment (注:ServerView Suite DVD V13.18.12以降では、指 定してもインストールされません)	○	○	○	○
Dynamic Reconfiguration utility PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E用	×	○	○	×
PRIMEQUEST REMCS Option PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E用	×	○	○	×
HBA blockage function PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E用	×	○	○	×
SIRMSエージェント PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E用	○	○	○	×
ServerView Mission Critical Option PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E用	×	○	○	×

[注7]:スクリプトから、ほかのスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

[注8]:shコマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

[注9]:MACアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

[注10]:アレイコントローラーを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。プロファイル適用を行うサーバーに複数のアレイコントローラーが搭載されている場合、構築対象のアレイコントローラー以外を無効にしてください。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。
Rootパスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ネットワーク			
コンピューター名をDNSサーバーから取得		DNSから取得したコンピューター名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = DNSから取得する (チェックなし) = 任意のコンピューター名を指定する [注1]
	コンピューター名 [注3]	DNSからコンピューター名 (ホスト名) を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
DHCP		管理LANのIPアドレスに対して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCPを利用する (チェックなし) = 固定IPを指定する [注2]
	IPアドレス [注3]	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	DNSサーバー	DHCPを利用しない場合、DNSサーバーのIPアドレスを指定します。	DNSサーバーのIPアドレスをIPv4形式で入力する。

[注1]: ポリシーで「コンピューター名をDNSサーバーから取得」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのコンピューター名を設定してください。

[注2]: ポリシーで「DHCP」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのIPアドレスを設定してください。

[注3]: コンピューター名、IPアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.4 SUSE Linux Enterprise Server用プロファイル

プロファイルで指定できるOSについては、当社の本製品Webサイトで『管理対象機器一覧』を参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール指定			
インストールメディア		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)		インストールに使用するServerView Suite DVDの版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンのServerView Suiteを使用する 版数を指定する＝指定した版数のServerView Suiteを使用する

項目名		説明	設定値
インストール情報			
インストール方法		インストール方法を選択します。  注意 - eLCMを選択する場合、対象サーバーにeLCMライセンスの登録、SDカードの搭載、eIMのダウンロードが必要です。 - PRIMEQUEST2000-Partition、PRIMEQUEST2000B、PRIMEQUEST3000E-Partition の場合、eLCMは選択できません。 	プルダウンから選択する。
管理LAN ネットワークポート設定			
ネットワークポート指定		管理LANに使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり) = 管理LANのネットワークポートを指定する
	指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方法を選択します。[注1][注2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 カードが搭載されているスロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MACアドレス [注12]	指定方法で、「MACアドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレスを入力する。
ブートモード指定		ブートモードを指定します。	(チェックあり) = ブート種別を指定する
	ブート種別	サーバーのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
基本設定			
地域と言語		言語を指定します。	プルダウンから選択する。
キーボード		キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
タイムゾーン		タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
	システムクロックでUTCを使用	システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり) = UTCを使用 (チェックなし) = ローカルタイムを使用
RAIDとディスクの構成			
アレイコントローラーを使用する		サーバー内蔵のアレイコントローラーをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイコントローラーを使用する [注3]
	既存アレイ構成を使用する (RAIDを使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) = 既存のアレイ構成を使用する

項目名		説明	設定値
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時)＝アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
	アレイコントローラーを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。[注4]
パーティション		下記の項目を「プロファイル」画面に表示された/boot、/varなどの各マウントポイントに対して指定します。	
	(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝パーティションを作成する (チェックなし)＝パーティションを作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する。 例：ext2, ext3, ext4 [注5] [注13]
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当てるかどうかを指定します。 Linuxインストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	(チェックあり)＝指定のパーティションに余った容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし)＝指定した容量でパーティションを作成
パッケージ選択			
	パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期選択を変更します。	最小＝必要最小限のパッケージ 全て＝すべてのパッケージ デフォルト＝推奨パッケージ
	パッケージグループ [注6] [注11] [注14]	インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり)＝インストールする (チェックなし)＝インストールしない
	個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行あたり1パッケージで複数行の記述が可能。
ブートローダーオプション			
	ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり)＝ブートローダをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
	ブートローダのインストール場所	ブートローダのインストール先を指定します。	MBR＝マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
	カーネルパラメーター	カーネルパラメーターを指定します。	カーネルパラメーターとして指定する文字列を入力する。 【省略可】

項目名		説明	設定値
Security-Enhanced Linux			
SE Linux		SE Linuxの使用有無を指定します。	本項は常に「Disabled」に設定される。
認証			
シャドウパスワードの使用		シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックあり(使用する)」に設定される。
MD5の使用		パスワード暗号化にMD5を使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックなし(使用しない)」に設定される。
nscdの有効		Name Switch Cacheを使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックあり(使用する)」に設定される。
アプリケーション		OSインストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
アプリケーション選択 (各種アプリケーション)		インストールするアプリケーションを指定します。 アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります。[注7]	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行 [注8]			
インストール後のスクリプト実行		インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) = インストール後にスクリプトを実行する
OSに転送するディレクトリー		インストール後、OSに転送するディレクトリーを指定します。	インストール後、OSに転送するディレクトリーを指定する。
実行するスクリプト		実行するスクリプトを指定します。[注9] [注10]	実行するスクリプトを指定する。

[注1]: CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを設定してください。

[注2]: PRIMEQUEST 2000(パーティション)・PRIMEQUEST 2000B・PRIMEQUEST 3000Eシリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MACアドレスを指定してください。

[注3]: アレイコントローラーを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。プロファイル適用を行うサーバーに複数のアレイコントローラーが搭載されている場合、構築対象のアレイコントローラー以外を無効にしてください。

[注4]: iSCSIの対応状況は、サーバーとServerView Suite DVDのマニュアルを参照してください。

[注5]: SLES 11 SP4では、ext4はReadのみ対応しています。SLES 12では、ext4がRead/Write両方可能ですが、SLESとして正式サポートの対象ではありません。

[注6]: SLES 12では、パッケージグループに「X Windows System」が指定されていない場合も、コンソールで起動しません。[Ctrl]+[Alt]+[F1]を押すと、コンソールからログインできます。

[注7]: 下表のアプリケーションはServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10、V12.18.08を使用した場合です。将来的にServerView Suite DVDの改版によって変更される場合があります。

SLES15系(1)はServerView Suite DVD V13.19.01以前を使用した場合、SLES 15系(2)はServerView Suite DVD V13.19.04以降を使用した場合です。

凡例: ○ = ISMで指定可、× = ISMで指定不可

アプリケーション	SLES 11 SP4 (x86)	SLES 11 SP4 (Intel64)	SLES 12系	SLES 15系(1)	SLES 15系(2)
ServerView Agentless Service	×	○	○	×	×
ServerView SNMP Agents	○	○	○	×	○

アプリケーション	SLES 11 SP4 (x86)	SLES 11 SP4 (Intel64)	SLES 12系	SLES 15系(1)	SLES 15系(2)
ServerView CIM Providers	×	×	×	×	○
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○	×	○
ServerView Operations Manager	×	×	×	×	×
ServerView RAID Manager	○	○	○	○	○
AIS Connect (注: ServerView Suite DVD V12.16.10以降では設定不可)	×	×	×	×	×
Java Runtime Environment (注: ServerView Suite DVD V13.18.12以降では、指定してもインストールされません)	○	○	○	○	○
Dynamic Reconfiguration utility PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E用	×	×	○	×	×
PRIMEQUEST REMCS Option PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E用	×	×	×	×	×
HBA blockage function PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E用	×	×	×	×	×
SIRMSエージェント PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E用	×	×	×	×	×
ServerView Mission Critical Option PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E用	×	×	×	×	×

[注8]: SLES 12では、インストール後のスクリプト実行に対応していません。

[注9]: スクリプトから、ほかのスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

[注10]: shコマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

[注11]: SLESをインストールしたサーバーをISMで管理する場合、「GNOME Basic」と「SAP Application Server Base」を指定してください。

[注12]: MACアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

[注13]: SLES 12では、パーティション /、/home、/var、/user、/opt、/tmp のファイルシステムにvfatを指定できません。

SLES 15では、パーティション /、/var、/tmp のファイルシステムにvfatを指定できません。

[注14]: SLES 12では、パッケージグループに「KVM Server」を指定すると、意図しないIPアドレスが設定されることがあります。その場合、手動でIPアドレスを設定してください。

OS個別情報タブ

項目名	説明	設定値
インストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常にOSタブで指定したインストールメディアとなる。

項目名		説明	設定値
Rootパスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ネットワーク			
	コンピューター名をDNSサーバーから取得	DNSから取得したコンピューター名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = DNSから取得する (チェックなし) = 任意のコンピューター名を指定する [注1]
	コンピューター名 [注3]	DNSからコンピューター名(ホスト名)を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
	DHCP	管理LANのIPアドレスに対して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCPを利用する (チェックなし) = 固定IPを指定する [注2] [注4]
	IPアドレス [注3]	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	DNSサーバー	DHCPを利用しない場合、DNSサーバーのIPアドレスを指定します。	DNSサーバーのIPアドレスをIPv4形式で入力する。

[注1]: ポリシーで「コンピューター名をDNSサーバーから取得」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのコンピューター名を設定してください。

[注2]: ポリシーで「DHCP」を(チェックあり)または未設定から(チェックなし)に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのIPアドレスを設定してください。

[注3]: コンピューター名、IPアドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

[注4]: SLES 12では、パッケージグループに「KVM Server」を指定すると、意図しないIPアドレスが設定されることがあります。その場合、手動でIPアドレスを設定してください。

第4章 PRIMERGYサーバー / PRIMEQUEST 3000E / 4000E パーティション用プロファイルの仮想IO設定項目

4.1 カード設定

使用したいカード数分設定します。

項目名	説明	設定値
オンボードカードスロット数	オンボード数を選択します。	プルダウンから選択する。
カードスロット数	使用するカード数を選択します。	プルダウンから選択する。
カードスロット		
オンボード<数字>		
カードタイプ	使用する種別を選択します。	画面から選択する。
ポート数	使用するポート数を選択します。	プルダウンから選択する。
カードスロット<数字>		
カードタイプ	使用する種別を選択します。	画面から選択する。
ポート数	使用するポート数を選択します。	プルダウンから選択する。



- 仮想IOの設定は、サーバーに搭載されているLAN、FC、CNA のカード/ボードすべてに仮想アドレスを割り当てて使用してください。一部のカード/ボードや一部のポートだけに仮想アドレスを割り当てるといった部分的な割当て運用はサポートしていません。
- 仮想IOの設定は、プロファイル編集で設定から除外したカード/ボード(カード/ボード数を0に設定したものを含む)は使用できない状態になります。基本的にOSから認識されなくなります(OSやドライバーによっては認識表示される場合があります)。
- 仮想IOの設定はiRMCに保存されるため、iRMCの電源がオンの場合に有効です。iRMCの電力が喪失(すべての電源ケーブルの切断、またはデータセンターでの電力喪失)したとき、iRMCは仮想IO設定を失います。AC電源が復帰し、iRMCが再びブートされたとき、仮想IO設定を再適用します。iRMCの電力が喪失した場合、iRMCの仮想IOの設定もなくなります。再度仮想IOの設定を有効にするには、プロファイルを再適用してください。
- スロット番号の異なる複数のオンボードが存在する場合、オンボードのスロット番号を先頭から数えたときの順番で指定してください。オンボードのスロット番号はノード詳細情報の[部品]タブから確認できます。
- PRIMEQUEST 3000E パーティションのPCIカードスロットは、スロット実装位置とスロット番号が異なります。仮想IOの設定では、実装位置ではなくスロット番号で指定してください。対応関係については、PRIMEQUEST 3000の『運用管理マニュアル』の「D.2 PCI Express スロット実装位置とスロット番号の対応」を参照してください。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>
- PRIMEQUEST 4000E パーティションのPCIカードスロットは、スロット実装位置とスロット番号が異なります。仮想IOの設定では、実装位置ではなくスロット番号で指定してください。対応関係については、PRIMEQUEST 4000の『iRMC S6 Webインターフェース』を参照してください。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/4000/catalog/>

4.2 ポート設定

「4.1 カード設定」で設定したカード数分の設定が必要です。

以下のカードごとの設定では、カードタイプ別の設定値について説明します。

項目名	説明	設定値
ポート情報		
仮想アドレスを使用する	仮想アドレスを使用する場合に選択します。	(チェックあり) = 仮想アドレスを使用する
SR-IOVを使用する	SR-IOVを使用する場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOVを使用する
ブートメニュー非表示 (F12)	ブートメニューを非表示にする場合に選択します。	(チェックあり) = ブートメニューを非表示にする
UEFIブートモード	使用するブートモードを選択します。[注1]	画面から選択する。[注2]
カードタイプがCNAの場合		
機能タイプ	CNAのFunctionを選択します。	プルダウンから選択する。
Boot	ブート方法を選択します。	プルダウンから選択する。
SR-IOV	SR-IOVを有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOVを有効にする
RoCE	RoCE設定を選択します。[注3] [注4] [注5]	プルダウンから選択する。
カードタイプがLANの場合		
機能タイプ	LANのFunctionを選択します。	常にLANとなる。
Boot	ブート方法を選択します。	プルダウンから選択する。
SR-IOV	SR-IOVを有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOVを有効にする
RoCE	RoCE設定を選択します。[注4] [注5]	プルダウンから選択する。
カードタイプがFCの場合		
機能タイプ	FCのFunctionを選択します。	常にFCとなる。
Boot	ブート方法を設定します。	プルダウンから選択する。
SR-IOV	SR-IOVを有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOVを有効にする
SMUX設定[注6]	SMUX設定を選択します。	画面から選択する。

[注1]:PRIMERGY M6シリーズ以降、またはPRIMEQUEST 3000Eパーティションの場合は、「UEFIのみ」を選択してください。

[注2]:本設定の設定値は、BIOSのCSM Configurationの設定に反映します。具体的な設定は以下を参照してください。

BIOS設定 CSM Configuration		仮想IO[UEFIブートモード]			
		レガシー優先	レガシーのみ	UEFI 優先	UEFI のみ
	Boot option filter	UEFI and Legacy もしくは Legacy only (「UEFI and Legacy」の選択肢がない場合)	Legacy only	UEFI and Legacy もしくは UEFI only (「UEFI and Legacy」の選択肢がない場合)	UEFI only
	Launch PXE OpROM Policy	Legacy only	Legacy only	UEFI only	UEFI only
	Launch Storage OpROM policy	Legacy only	Legacy only	UEFI only	UEFI only
	Other PCI device ROM priority	Legacy only	Legacy only	UEFI only	UEFI only

[注3]:[機能タイプ]が「LAN」の場合のみ設定できます。

[注4]:本項目を設定する場合、「仮想アドレスを使用する」にチェックを入れてください。

[注5]:本項目を設定する場合、「SR-IOV」のチェックを外してください。

[注6]:サーバーがPRIMERGY BXの場合のみ設定できます。



ローカルディスク(SATA、またはSAS)へOSインストールを行う場合、仮想IOでBoot設定は利用できません。プロファイル適用前に手動でサーバーのPXEブートが優先となるようにサーバーのブート順を変更してください。

4.3 ブート設定

ブート優先順を変更する場合は、各項目の右側にある矢印ボタンを使用してください。

オンボードのポート数、およびPCIカード数・ポート数は、「4.1 カード設定」および「4.2 ポート設定」で設定した数分、設定してください。

以下では、オンボード・PCIカード問わず、機能タイプ別の設定値について説明します。

項目名		説明	設定値
機能タイプがLANの場合			
	IPプロトコル	IPプロトコルについて選択します。	画面から選択する。
機能タイプがFCoEの場合			
	接続速度	接続速度を選択します。	プルダウンから以下を選択する。 自動、1 Gbit/s、2 Gbit/s、4 Gbit/s、 8 Gbit/s、16 Gbit/s [注1]
	接続タイプ	接続形態を選択します。	画面から選択する。
第1ターゲット			
	ポート名(WWPN)	SANブートで起動するストレージのWWPNを入力します。	WWPNを入力する。
	LUN	SANブートで起動するストレージのLUNを入力します。	LUNを入力する。
第2ターゲット			
	ポート名(WWPN)	SANブートで起動するストレージのWWPNを入力します。	WWPNを入力する。
	LUN	SANブートで起動するストレージのLUNを入力します。	LUNを入力する。
機能タイプがiSCSIの場合			
イニシエータパラメーター			
	アドレス設定	イニシエータのアドレス取得方法を選択します。	画面から選択する
	イニシエータ名	イニシエータのIQNを入力します。	IQNを入力する。 入力する文字列は、先頭および、末尾が英数字、それ以外は、英数字および記号(ピリオド"."、コロン":"およびハイフン"-")で構成された223文字以内とする。
	VLAN ID	HBAが要求を送信するために使用されるVLAN IDを入力します。	VLAN IDを入力する。

項目名		説明	設定値
	IPv4	アドレス設定で「固定」を選択した場合、イーニシエータで使用するIPアドレスを入力します。	IPアドレスを入力する。
	サブネットマスク	アドレス設定で「固定」を選択した場合、サブネットマスクを入力します。	サブネットマスクを入力する。
	ゲートウェイアドレス	アドレス設定で「固定」を選択した場合、ゲートウェイのアドレスを入力します。	ゲートウェイのアドレスを入力する。
	ターゲットパラメーター		
	IPアドレス	ターゲットのアドレス取得方法を選択します。	画面から選択する。
	ターゲット名	ターゲットのIQNを入力します。	IQNを入力する。 入力する文字列は、先頭および、末尾が英数字、それ以外は、英数字および記号(ピリオド"."、コロン":"およびハイフン"-")で構成された223文字以内とする。
	IPv4	IPアドレスで「固定」を選択した場合、ターゲットで使用するIPアドレスを入力します。	IPアドレスを入力する。
	ポート(opt)	IPアドレスで「固定」を選択した場合、ターゲットのポート番号を入力します。	ポート番号を入力する。
	LUN	IPアドレスで「固定」を選択した場合、ターゲットのLUN番号を入力します。	LUN番号を入力する。
	認証方式	認証方式を選択します。	画面から選択する。
	CHAPユーザー名	認証方式で、「CHAP」または「Mutual CHAP」を選択した場合、認証ユーザー名を入力します。	認証ユーザー名を入力する。 文字列は、半角英数字および記号で構成された127文字以内とする [注2]。
	CHAPパスワード	認証方式で、「CHAP」または「Mutual CHAP」を選択した場合、CHAP認証に使用するパスワードを入力します。	パスワードを入力する。 文字列は、半角英数字および記号で構成された12以上16文字以内とする [注2]。
	Mutual CHAPパスワード	認証方式で、「Mutual CHAP」を選択した場合、Mutual CHAP認証に使用するパスワードを入力します。	パスワードを入力する。 文字列は、半角英数字および記号で構成された12以上16文字以内とする [注2]。

[注1]: 設定したい接続速度が設定値にない場合、設定値に「自動」を選択してください。

[注2]: ハードウェアのモデルによっては記号が使用できない場合があります。半角英数字のみを使用することを推奨します。

4.4 CNA設定

「[4.1 カード設定](#)」でオンボードまたはPCIカードのカードタイプに、「CNA」を指定した場合に設定します。

「[4.2 ポート設定](#)」で設定した、CNAの機能タイプ数分設定します。

機能タイプ別の設定値について説明します。

項目名	説明	設定値
機能タイプがFCoEの場合		

項目名		説明	設定値
	最少帯域幅[%]	帯域幅の最小値を入力します。	帯域幅の最小値を入力する。[注1]
	最大帯域幅[%]	帯域幅の最大値を入力します。	帯域幅の最大値を入力する。[注1]
機能タイプがLAN または iSCSI の場合			
	最少帯域幅[%]	帯域幅の最小値を入力します。	帯域幅の最小値を入力する。[注1]
	最大帯域幅[%]	帯域幅の最大値を入力します。	帯域幅の最大値を入力する。[注1]
	VLAN ID	VLAN IDを入力します。	VLAN IDを入力する。

[注1]:1つのIOチャンネルのすべての合計が100になるように設定します。

1つのIOチャンネルのすべての帯域幅の合計が100 でない場合、帯域幅の値はそれに応じて内部で調整されます。

4.5 仮想アドレス設定

「4.1 カード設定」で入力したカード情報数分設定します。

カードタイプ別の設定値について説明します。

項目名		説明	設定値
カードタイプがLANの場合			
	仮想アドレス割り当て	仮想アドレス割り当てを行う場合に選択します。	(チェックあり) = 仮想アドレスを割り当てる
	仮想アドレス [注1]		
	自動割り当て	プール管理からの自動割り当てを有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = 自動割り当てを有効にする
	MAC [注2]	仮想MACアドレスを入力します。	仮想MACアドレスを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)またはハイフン(-)で区切る。
カードタイプがFCの場合			
	仮想アドレス割り当て	仮想アドレス割り当てを行う場合に選択します。	(チェックあり) = 仮想アドレスを割り当てる
	仮想アドレス [注1]		
	自動割り当て	プール管理からの自動割り当てを有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = 自動割り当てを有効にする
	WWNN [注2]	仮想WWNNを入力します。	仮想WWNNを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)で区切る。
	WWPN [注2]	仮想WWPNを入力します。	仮想WWPNを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)で区切る。
カードタイプがCNAの場合			
	仮想アドレス割り当て	仮想アドレス割り当てを行う場合に選択します。	(チェックあり) = 仮想アドレスを割り当てる
	仮想アドレス [注1]		

項目名		説明	設定値
	自動割り当て	プール管理からの自動割り当てを有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = 自動割り当てを有効にする
	WWNN [注2]	機能タイプが「FCoE」の場合、仮想WWNNを入力します。	仮想WWNNを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)で区切る。
	WWPN [注2]	機能タイプが「FCoE」の場合、仮想WWPNを入力します。	仮想WWPNを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)で区切る。
	E-MAC [注2]	機能タイプが「FCoE」の場合、仮想E-MACアドレスを入力します。	仮想E-MACアドレスを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)またはハイフン(-)で区切る。
	MAC [注2]	機能タイプが「iSCSI」または「LAN」の場合、仮想MACアドレスを入力します。	仮想MACアドレスを入力する。 2桁ずつの半角英数字をコロン(:)またはハイフン(-)で区切る。

[注1]:「仮想アドレス割り当て」にチェックを付けた場合のみ設定します。

[注2]:「自動割り当て」にチェックを付けない場合のみ設定します。



注意

- IQN、WWPN、仮想MACアドレスは、全体で一意である必要があります。
WWNNは、同一カードを除き、全体で一意である必要があります。
IQN、WWPN、WWNNが重複し、同一ボリュームに同時にアクセスするとボリュームを破壊する可能性があります。
仮想MACアドレスが重複すると、ネットワーク通信ができなくなります。
- マルチキャストMACアドレスは仮想MACアドレスとして使用できません。
任意に仮想アドレスを設定すると、他カードの工場出荷値と重複する可能性があります。
ユーザーが重複しない仮想アドレスを事前に準備してください。

第5章 PRIMERGYサーバー用プロファイルの RAID設定項目

プロファイル中のRAIDタブで設定可能な項目を記載します。

RAIDタブ

項目名		説明	設定値
RAIDとディスクの設定 [注1]			
	RAIDレベル	新規にRAID構築をします。	構築するRAIDレベルをプルダウンから選択する。
	ディスク数を手動で設定する	RAID構築に使用するディスク台数を指定する場合に選択します。	(チェックあり) = ディスク数を指定する
	ディスク数 [注2]	RAID構築に使用するディスク台数を指定します。	(RAID1+0以外選択時) RAIDに組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。 (RAID1+0選択時) 1ディスクグループに組み込むディスク台数をプルダウンから選択する。
	ディスクグループ数	RAID構築に使用するディスクグループ数を指定します。	(RAID1+0選択時) ディスクグループ数をプルダウンから選択する。

[注1]:PRIMERGY BXシリーズは、対象外です。

[注2]:RAIDレベルによって、ディスク数に指定したとおりにRAIDが構築されません。対象サーバーがサポートする範囲でRAIDが構築されます。

第6章 ストレージ用プロファイルの設定項目

ストレージ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類に応じて選択可能な項目が異なる場合があります。
各項目の詳細は、対象ストレージのマニュアルを参照してください。

6.1 ETERNUS DX用プロファイル

RAID&ディスク構成タブ

項目名		説明	設定値
RAID構成			
RAIDグループ名		RAIDグループ名を指定します。  注意 装置に設定済みのRAIDグループ名は指定できません。	RAIDグループ名文字列を入力する。 1～16文字が入力可能。
RAIDレベル		構築するディスクアレイのRAIDレベルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 RAID1、RAID5、RAID6、RAID1+0
ディスク本数		ディスクアレイに組み込むディスク本数を指定します。	ディスク数を指定する。 選択したRAIDレベルに応じて選択可能な台数は異なる。
ディスクインチ		ディスクドライブの種類(ドライブ外形サイズ)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
ディスク種別		ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(インターフェイス種類)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SED、SSD
ディスク容量		ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(ディスク容量)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ボリューム			
ボリューム名		RAIDグループに作成するボリューム名を指定します。  注意 装置に設定済みのボリューム名は指定できません。	RAIDグループに作成するボリューム名文字列を指定する。 1～16文字が入力可能。
ボリュームサイズ		RAIDグループに作成するボリュームサイズを指定します。	テキストボックスにボリュームサイズを指定し、プルダウンから以下を選択する。

項目名		説明	設定値
			最後のボリュームサイズに対しては"max"を指定するとRAIDグループの残り全容量が割り当てられる。 ETERNUS DX60 S2では"max"は指定できない。 MB、GB、TB
グローバルホットスペア			
	ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(ドライブ外形サイズ)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
	ディスク種別	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(インターフェイス種類)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SED、SSD
	ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(ディスク容量)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ホストアフィニティ			
	LUNグループ		
	LUNグループ名	LUNグループ名を指定します。  注意 装置に設定済みのLUNグループ名は指定できません。	LUNグループ名文字列を指定する。
	ボリューム		
	ボリューム名	LUNグループに属するボリューム名を指定します。	LUNグループに属するボリューム名文字列を入力する。 プロファイルで作成するボリュームか、すでに装置に作成されているボリュームを指定する。
	ポートグループ		
	ポートグループ名	ポートグループ名を指定します。  注意 装置に設定済みのポートグループ名は指定できません。	ポートグループ名文字列を指定する。 1～16文字が入力可能。
	ポート		
	ポート番号	ポートグループに属するポート番号を指定します。	ポートグループに属するポート番号を三桁の数字で指定する。

項目名		説明	設定値
ホストグループ			
	ホストグループ名	ホストグループ名を指定します。  注意 装置に設定済みのホストグループ名は指定できません。	ホストグループ名文字列を指定する。 1～16文字が入力可能。
	ホストタイプ	ホストグループのタイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 iSCSI、FC
ホスト			
	ホスト名	ホストグループに属するホスト名を指定します。  注意 装置に設定済みのホスト名は指定できません。	ホストグループに属するホスト名文字列を指定する。 1～16文字が入力可能。
	ホストiSCSI	ホスト名を定義するiSCSI名を指定します。 ホストグループのホストタイプがiSCSI名のときに入力可能です。	iSCSI名文字列を入力する。 先頭に"iqn."または"eui."を入力する。
	ホストWWN	ホスト名を定義するホストWWNを指定します。 ホストグループのホストタイプがFCのときに入力可能です。	ホストWWN文字列を入力する。 16文字の16進数が入力可能。
詳細設定			
	Pre実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホットスペア/ホストアフィニティ設定)の実行前にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボックスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の『CLIユーザーガイド』を参照してください。
	Post実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホットスペア/ホストアフィニティ設定)の完了後にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボックスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の『CLIユーザーガイド』を参照してください。

ポイント

- ・ アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。
- ・ ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。

6.2 ETERNUS NR・ETERNUS AX・ETERNUS HX・ETERNUS AC用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
	SNMPサービス設定	SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMPエージェント (ON/OFF)	SNMPエージェントの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
	SNMPトラップ (ON/OFF)	SNMPトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
コミュニティ (ホスト用)			
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	コミュニティ名3～32文字の文字列を入力する。
ユーザー (v3ホスト用)			
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名3～32文字の文字列を入力する。
	認証設定	SNMP認証設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 MD5、SHA、SHA2、NoAuth
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを入力します。	認証パスワード8～30文字の文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	暗号化プロトコル	SNMP暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 DES、AES、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP暗号化パスワードを指定します。	暗号化パスワード3～30文字の文字列を入力する。
v3ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	プルダウンから設定済みのユーザーを選択する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする

項目名		説明	設定値
	サーバー設定	時刻提供サーバーの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	アドレス	時刻提供サーバーのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバーのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	プロトコルバージョン	NTPプロトコルのバージョンを指定します。	3 = インターネット標準RFC#1305に基づくNTPプロトコルバージョン3 4 = インターネット標準RFC#5905に基づいたNTPプロトコルバージョン4 auto(デフォルト) = Data ONTAPでNTPプロトコルのバージョンを選択

第7章 スイッチ用プロファイルの設定項目

スイッチ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。

各項目の詳細は、対象スイッチのマニュアルを参照してください。

7.1 SR-X用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
SNMPサービス設定		SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
SNMPエージェント設定		SNMPエージェント設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	エージェントアドレス	エージェントアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = エージェントアドレスを有効にする 加えて、エージェントアドレスをIPv4形式で入力する
	SNMPエンジンID	SNMPエンジンIDを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMPエンジンIDを有効にする 加えて、SNMPエンジンIDを入力する。
SNMPホスト (SNMPv1 or v2c)			
	番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレスをIPv4形式で指定する。
	コミュニティ名	SNMPホストのコミュニティ名を指定します。	SNMPホストのコミュニティ名文字列を入力する。
	トラップ	SNMPトラップの送信有無を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 Off、v1、v2c
	書き込み	SNMPマネージャーからの書き込みを許可するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 許可する (チェックなし) = 許可しない
SNMPユーザー (SNMPv3)			
	番号	SNMPユーザー定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	SNMPユーザー名文字列を入力する。
	アドレス設定	SNMPのホストアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレス文字列を入力する。

項目名		説明	設定値
	トラップ設定		SNMPトラップ設定を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレス文字列を入力する。
	認証設定		SNMP認証プロトコルを有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、MD5、SHA
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを指定します。	SNMP認証パスワード文字列を入力する。
	暗号化設定		SNMP暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	暗号化プロトコル	SNMP暗号プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、DES
	暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	SNMP暗号パスワード文字列を入力する。
	読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 読み取りを許可しない all: 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 書き込みを許可しない all: 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 読出しを許可しない all: 読出しを許可する

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードを変更するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード文字列を入力する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
時刻の自動調整		時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	サーバー設定		(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	プロトコル (Time/SNTP)		Time = TCPを使用する SNTP = UDPを使用する
	アドレス		時刻提供サーバーのIPアドレスを指定します。
	間隔設定		自動時刻設定する間隔を有効にするかどうかを指定します。
	間隔時間 (起動時/期間指定)		起動時 = 起動時に行う 期間指定 = 任意の期間に行う。加えて、画面に期間を入力する
	タイムゾーン設定		(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	グリニッジ標準時刻からの時間差		装置が使用するグリニッジ標準時刻からの時間差を指定します。

STPタブ

項目名		説明	設定値
STP (スパニングツリープロトコル) 設定			
	STP	STP設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから選択する。

7.2 VDX用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
	SNMPサービス設定	SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝使用する (チェックなし)＝使用しない
	SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON＝機能を有効にする OFF＝機能を無効にする
グループ (コミュニティとユーザー用)			
	グループ名	グループ名を指定します。	グループ名文字列を入力する。
	SNMPバージョン	SNMPバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c、v3
	v3セキュリティレベル	SNMPv3用セキュリティレベルを指定します。	(チェックあり)＝有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。

項目名		説明	設定値
			auth、noauth、priv
	読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 読み取りを許可しない all: 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 書き込みを許可しない all: 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 読出しを許可しない all: 読出しを許可する
コミュニティ (ホスト用)			
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	コミュニティ名文字列を入力する。
	グループ	コミュニティが所属するグループを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから選択済みのグループを選択する。
	書き込み	SNMPコミュニティの書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Enabled、Disabled
ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	プルダウンから設定済みのコミュニティ名を選択する。
	重大度レベル	SNMPトラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する。
	トラップバージョン	SNMPトラップバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c
	UDPポート	SNMPトラップ送信ポート番号を指定します。	SNMPトラップ送信ポート番号を入力する。 「0」～「65535」が指定可能。
ユーザー (v3ホスト用)			
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名1～16文字の文字列を入力する。
	グループ	SNMPグループ名を指定します。	プルダウンから設定済みのグループを選択する。

項目名		説明	設定値
	認証設定		SNMP認証設定を有効にするかどうかを指定します。
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 MD5、SHA、NoAuth
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを入力します。	認証パスワード1～32文字の文字列を入力する。
	暗号化設定		SNMP暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。
	暗号化プロトコル	SNMP暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 DES、AES128、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード1～32文字の文字列を入力する。
v3ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	プルダウンから設定済みのユーザーを選択する。
	重大度レベル	SNMPトラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する。
	通知タイプ	SNMP通知タイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 traps、informs
	エンジンID	SNMPエンジンIDを指定します。	エンジンID「0:0:0:0:0:0:0:0」～「FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF」を文字列で指定する。 文字パターンは、MACアドレスと同様。
	UDPポート	SNMPトラップ送信ポート番号を指定します。	SNMPトラップ送信ポート番号を入力する。 「0」～「65535」が指定可能。

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更		管理者パスワードを変更するかどうかを指定します。
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	(チェックあり)＝管理者パスワードを変更する パスワード8～32文字の文字列を入力する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝有効にする

項目名		説明	設定値
	サーバー設定	時刻提供サーバーの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	アドレス	時刻提供サーバーのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバーのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	地域	地域情報を指定します。	地域情報を(地域)/(都市)形式で入力する。

7.3 イーサネットスイッチ(10GBASE-T 48+6/10GBASE 48+6)用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
	SNMPサービス設定	SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
グループ (コミュニティとユーザー用)			
	グループ名	グループ名を指定します。	グループ名文字列を入力する。
	SNMPバージョン	SNMPバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c、v3
	v3セキュリティレベル	SNMPv3用セキュリティレベルを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 auth、noauth、priv
	読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 読み取りを許可しない Default: 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 書き込みを許可しない Default: 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。

項目名		説明	設定値
			none: 読出しを許可しない Default: 読出しを許可する
コミュニティ (ホスト用)			
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	コミュニティ名文字列を入力する。
	グループ	コミュニティが所属するグループを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから選択済みのグループを選択する。
	書き込み	SNMPコミュニティの書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Enabled、Disabled
ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	コミュニティ名	SNMPコミュニティ名を指定します。	プルダウンから設定済みのコミュニティ名を選択する。
	トラップバージョン	SNMPトラップバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c
	UDPポート	SNMPトラップ送信ポート番号を指定します。	SNMPトラップ送信ポート番号を入力する。 「1」～「65535」が指定可能。
ユーザー (v3ホスト用)			
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名1～30文字の文字列を入力する。
	グループ	SNMPグループ名を指定します。	プルダウンから設定済みのグループを選択する。
	認証設定	SNMP認証設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 MD5、SHA、NoAuth
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを入力します。	認証パスワード1～32文字の文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	暗号化プロトコル	SNMP暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 DES、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード1～32文字の文字列を入力する。
v3ホスト			
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。

項目名		説明	設定値
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	プルダウンから設定済みのユーザーを選択する。
	通知タイプ	SNMP通知タイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 traps、informs
	UDPポート	SNMPトラップ送信ポート番号を指定します。	SNMPトラップ送信ポート番号を入力する。 「1」～「65535」が指定可能。

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードを変更するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード8～64文字の文字列を入力する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	サーバー設定	時刻提供サーバーの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	アドレス	時刻提供サーバーのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバーのIPアドレスをIPv4またはIPv6のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	モード	モードを指定します。	Broadcast = SNTPサーバーにブロードキャスト情報を問い合わせして時刻を同期する Unicast = SNTPクライアントはSNTPサーバーとポイント・ツー・ポイントの関係で動作する
	間隔設定	自動時刻設定する間隔を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	間隔時間[s]	自動時刻設定の間隔[秒]を指定します。	画面に期間を入力する
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	グリニッジ標準時刻からの時間差	装置が使用するグリニッジ標準時刻からの時間差を指定します。	プルダウンから選択する。

7.4 CFX用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMPサービス			
SNMPサービス設定		SNMPサービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
SNMPエージェント設定		SNMPエージェント設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	ドメインID	ドメインIDを指定します。	ドメインIDを入力する
	エージェントアドレス	エージェントアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = エージェントアドレスを有効にする 加えて、エージェントアドレスのIPアドレス文字列を入力する。
	SNMPエンジンID	SNMPエンジンIDを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMPエンジンIDを有効にする 加えて、SNMPエンジンIDを入力する。
SNMPホスト (SNMPv1 or v2c)			
	番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレスを入力する。
	コミュニティー名	SNMPホストのコミュニティー名を指定します。	SNMPホストのコミュニティー名文字列を入力する。
	トラップタイプ	SNMPトラップの送信有無を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 off、v1、v2c
	書き込み	SNMPマネージャーからの書き込みを許可するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 許可する (チェックなし) = 許可しない
SNMPユーザー (SNMPv3)			
	番号	SNMPユーザー定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	(チェックあり) = 指定する 加えて、SNMPユーザー名文字列を入力する。
	アドレス設定	SNMPのホストアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレス文字列を入力する。
	トラップ設定	SNMPトラップ設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	SNMPホストのIPアドレス文字列を入力する。
	認証設定	SNMP認証プロトコルを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする

項目名		説明	設定値
	認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、MD5、SHA
	認証パスワード	SNMP認証パスワードを指定します。	SNMP認証パスワード文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	暗号化プロトコル	SNMP暗号プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、DES
	暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	SNMP暗号パスワード文字列を入力する。
	読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 読み取りを許可しない all: 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 書き込みを許可しない all: 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none: 通知を許可しない all: 通知を許可する

Interfaceタブ

項目名		説明	設定値
インターフェイス設定			
	ターゲット	etherポートを指定します。	「シャーシID/etherポート番号」または「ドメインID/スイッチID/シャーシID/etherポート番号」で指定します。
	ポートタイプ	Endpointにするかどうかを指定します。	(チェックあり) = Endpointにする
	LLDP	LLDPを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Disable = LLDP機能は動作しない Enable = LLDP情報の送受信を行う Send = LLDP情報の送信だけを行う Receive = LLDP情報の受信だけを行う

項目名		説明	設定値
	Cfabポートモード	Cfabポートモードを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Auto = 自動的に検知したポート種別で動作する External = 強制的に外部ポートとして動作する

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードを変更するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード文字列を入力する。
AAA設定			
	AAAグループID	AAAグループIDを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 0～9
	LDAP機能	LDAPサービス機能の有効、無効を指定します。	有効 = 機能を有効にする 無効 = 機能を無効にする
	LDAP設定	LDAPクライアント設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	クライアント		
	番号	クライアント番号を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 0～3
	サーバー情報設定	サーバー情報設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	LDAPサーバアドレス	LDAPサーバーのIPアドレスを指定します。	LDAPサーバーのIPアドレス文字列を入力する。
	送信元	送信元情報を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ドメインID	送信元ドメインIDを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 1～32
	アドレス	送信元IPアドレスを指定します。	送信元のIPアドレス文字列を入力する。
	RDN	RDNを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、RDNを入力する。 例: CN
	バインド名(RDN以外)	RDNを除くバインド名を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、RDNを除くバインド名を入力する。 例: CN=user,DC=local

項目名				説明	設定値
			管理者	管理者クラス情報を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
			クラスID	クラスIDを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 0～3
			クラス値	管理者クラス値を指定します。	管理者クラス値の文字列を入力する。 例 : user

NTPタブ

項目名				説明	設定値
時刻の自動調整					
			時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
			サーバー設定	時刻提供サーバーの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
			プロトコル (Time/SNTP)	使用するプロトコルを指定します。	Time = TCPを使用する SNTP = UDPを使用する
			アドレス	時刻提供サーバーのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバーのIPアドレス文字列を入力する。
			間隔設定	自動時刻設定する間隔を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
			間隔時間 (起動時/期間指定)	自動時刻設定の間隔を指定します。	起動時 = 起動時に行う 期間指定 = 任意の期間に行う。加えて、画面に期間を入力する
			タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
			グリニッジ標準時刻からの時間差	装置が使用するグリニッジ標準時刻からの時間差を指定します。	プルダウンから選択する。

第8章 共通ポリシーの設定項目

対象サーバー種別に依存することなく作成できる共通ポリシーで設定可能な項目を記載します。

8.1 監視ポリシー

項目名	説明	設定値
監視ポリシー有効	監視ポリシーを有効にするかどうかを指定します。  注意 プロファイル、またはポリシーを作成するときに監視ポリシーを利用する場合、本項目で(チェックあり)を指定してください。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
検出ノード登録時、監視ポリシー適用を有効にする	検出ノード登録時、監視ポリシー適用を有効にするかどうかを指定します。  注意 監視ポリシーを適用したノードは、モデル毎プロファイルを適用することはできません。モデル毎プロファイルを使用するには、監視ポリシーを適用しないでください。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
SNMP 一般設定		
SNMP 有効	SNMPを有効にするかどうかを指定します。	有効 = SNMPを有効にする 無効 = SNMPを無効にする
SNMPポート(初期値: 161)	SNMP サービスが待機しているポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は UDP 161
SNMPv1/v2cコミュニティ名	SNMP v1/v2c の場合のコミュニティ文字列を指定します。	コミュニティ文字列を入力する。
SNMPトラップ送信先		
SNMPトラップコミュニティ	SNMPトラップ送信先のコミュニティ名を指定します。	SNMPトラップコミュニティ文字列を入力する。
送信先SNMPサーバー 1-7	「トラップ送信先」として設定するコミュニティに属するサーバーのDNS名またはIPアドレスを指定します。	SNMPサーバーのIPアドレス、またはDNS文字列を入力する。
プロトコル	トラップの受信に使用するSNMPプロトコルバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 SNMPv1、SNMPv2c
時刻		
タイムモード	時刻設定を管理対象サーバーから取得する、またはNTPサーバーから取得するかどうかを指定します。	システムRTC = システムクロックから時刻を取得する NTPサーバー = ネットワークタイムプロトコル(NTP)を使用して独自の時刻を参照時刻ソースとして動作するNTPサーバーと同期する

項目名		説明	設定値
	RTCモード	時刻を UTC (協定世界時) 形式で表示する、またはローカルタイム形式で表示するかを選択できます。	ローカルタイム＝時刻をローカルタイム形式で表示する UTC＝時刻を UTC (協定世界時) 形式で表示する
	NTPサーバー 1	NTP サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力する。
	NTPサーバー 2	NTP サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力する。
	タイムゾーン	サーバーのある場所に対応するタイムゾーンを設定できます。	プルダウンから選択する。

監視ポリシーと関連付くプロファイルの設定項目について、以下の表に示します。

プロファイル種別	監視ポリシーとの関連
BIOS	-
iRMC	○
OS	-

監視ポリシー項目名		iRMC設定項目名
SNMP 一般設定		SNMP 一般設定
	SNMP 有効	SNMP有効
	SNMPポート	SNMPポート
	SNMPv1/v2cコミュニティ名	SNMPv1/v2cコミュニティ名
SNMPトラップ送信先		SNMPトラップ送信先
	SNMPトラップコミュニティ	SNMPトラップコミュニティ
	送信先SNMPサーバー 1-7	送信先SNMPサーバー 1-7
	プロトコル	プロトコル
時刻		時刻
	タイムモード	タイムモード
	RTCモード	RTCモード
	NTPサーバー 1	NTPサーバー 0
	NTPサーバー 2	NTPサーバー 1
	タイムゾーン	タイムゾーン